

水道工事完成図作成の標準

令和4年 9月

横浜市水道局

目 次

第 1	一般事項	1
1	適用	1
2	工事完成図提出の手順と部数	1
3	工事完成図の区分	1
4	工事完成図の種類	1
第 2	図面作成の基本	3
1	原図の品質と規格寸法	3
2	線と文字の基本事項	3
3	原図と枠取りの標題欄	4
第 3	工事区分による完成図の製図	9
1	管新設工事及び既設管撤去工事	9
2	仮設工事	25
3	管更生工事	26
4	坑内管新設工事	28
第 4	表示記号	29
1	各種図面に使用する表示記号等の標準	30
2	管種別略称及び配管記号等	35
3	ライニング工事及び塗覆装工事別記号	38
4	配管記号	39
5	漏水防止金具、伸縮継手、割T字管等配管記号	41
6	弁類等付属設備の配管記号と管路記号	42
7	口径 50mm 以下配管記号と管路記号	46
第 5	図面作成例	48
	工事完成図作成の標準付属	
	配水管及び仕切弁等オフセット測量基準	63

工事完成図作成の標準

第1 一般事項

1 適用

この工事完成図の作成は、水道工事標準仕様書に基づき定めるものである。

2 工事完成図提出の手順と部数

(1) 工事完成図の確認

請負人は、工事完成図を作成し提出するにあたっては、監督員の確認を受けなければならない。

なお、完成図作成に必要となる資料のうち、水道局が提供する資料については、監督員から受け取ること。

(2) 提出部数

電子成果品として電子媒体（CD-R）2部（正副各1部）を工事完成検査前に監督員へ提出する。ただし、監督員の指示があった場合は、その指示による。

3 工事完成図の区分

工事完成図は、工事の内容に応じ次の区分に大別する。

(1) 管新設（布設替含む）工事

(2) 仮設工事・仮設管撤去工事等

ア 仮設工事

イ 仮設管撤去工事

(3) 管更生工事

管内挿、及びパイプライニング工事をいう。

(4) 坑内管新設工事

推進、シールド等により管布設を施工する工事をいう。

(5) 構造物関係工事

(6) 貯水槽（タンク）関係工事

(7) 共同溝関係工事

(8) その他

4 工事完成図の種類

作成する工事完成図は監督員が指示する。

(1) 案内図

(2) 平面図（管路図記入）

(3) 縦断図（配管図記入）※1

(4) 布設位置断面図

- (5) 各種詳細図
- (6) 配管図
- (7) 材料表
- (8) 各種オフセット図
- (9) 口径 50 mm以下取付替オフセット図（共用止水栓オフセット図含む）
- (10) 用地図
- (11) 中心線測量成果図
- (12) 各種構造図（標準図を除く）
- (13) 土地使用承諾書等の権利関係書類^{※2}
- (14) その他

※1 縦断図については、布設管路表示口径 400 mm以上から作成する。

※2 権利関係の諸手続きが生じた工事については、監督員の指示に従い土地使用承諾書等の関係書類（PDF データ等の写し）を図面化する。

第2 図面作成の基本

1 原図の品質と規格寸法

(1) 原図の品質

原図の品質は、良質なトレーシングペーパー又は、それと同等以上のものとする。

(2) 原図の規格寸法

原図の大きさは、次の規格寸法（表 1-1）のものを工事の区分又は、必要とする図面の大きさに応じ使用する。

（表 1-1：原図の規格寸法）

	大きさの 呼び方	仕上り寸法 (mm) (幅×長さ)	摘 要
1	A 2 判	420×594	一般的に管新設工事に使用するか他の工事に使用してよい。
2	A 1 判	594×841	A 2 判によることが不適当な管新設工事又は 構造物等の工事に使用する。

ただし、同一工事には原則として同一の大きさのものを使用しなければならない。

2 線と文字の基本事項

(1) 濃度の一定化

線と文字は、一定の濃度で作図しなければならない。

(2) 線（国土交通省発行“CAD製図基準”一部引用）

図面に使用する線の太さは、図面の視認性を考慮する。線の太さは細線、太線、極太線の3種類とし、その比率を1:2:4とする。

線の太さは、図面の大きさや種類により 0.13、0.18、0.25、0.35、0.5、0.7、1、1.4、2mmの中から選択するが、これらの数値は、CAD データを紙に出力する場合の規定値である。

実際に出図される線の太さは出力装置により異なるため、近似値としてよい。

線の太さの組み合わせを表 1-2 に示す。

（表 1-2：線の組み合わせ）

線グループ	細線	太線	極太線
0.25 mm	0.13 mm	0.25 mm	0.5 mm
0.35 mm	0.18 mm	0.35 mm	0.7 mm
0.5 mm	0.25 mm	0.5 mm	1.0 mm
0.7 mm	0.35 mm	0.7 mm	1.4 mm
1.0 mm	0.5 mm	1.0 mm	2.0 mm

(3) 文字（国土交通省発行“CAD製図基準”一部引用）

ア 文字は、JIS Z 8313：1998「製図—文字」に基づくことを原則とする。

イ 文字の高さ

CAD データを作図する場合は、原則として 3.5、5、7、10、14、20mm から選択する。

図面内に使用するタイトルは 14、20 mm とし、標題欄やその他の文字は、3.5、5、7、10mm とするなど、A3 など縮小版で紙出力した場合でも読みやすいサイズを使用するよう留意する。例えば、単位 (m², m³) 等を入力する場合において、文字の高さを変える必要が生じる場合には、上記の高さ以外の文字を使用できる。

- ウ 漢字は常用漢字、かなはひらがなを原則とする。ただし、外来語はカタカナとする。
- エ CAD で縦書きをする場合は、文字列として入力するとともに、全角文字を用いることを原則とする。
- オ 使用できる文字
CAD で文字を書く場合は、CAD ソフトウェアの機能とフォントに依存するため、CAD ソフトウェア固有の文字や機種依存文字は使用せず、アウトラインフォント又は製図に用いる文字に類似した文字を使用する。

(4) 禁止事項

次に示す事項は、濃度の一定化及び濃度の範囲のうえから行ってはならない。

- ア 裏書き（原図の裏面に記入することをいう。）
- イ ゴム印等の使用

3 原図の枠取りと標題欄

(1) 枠取り

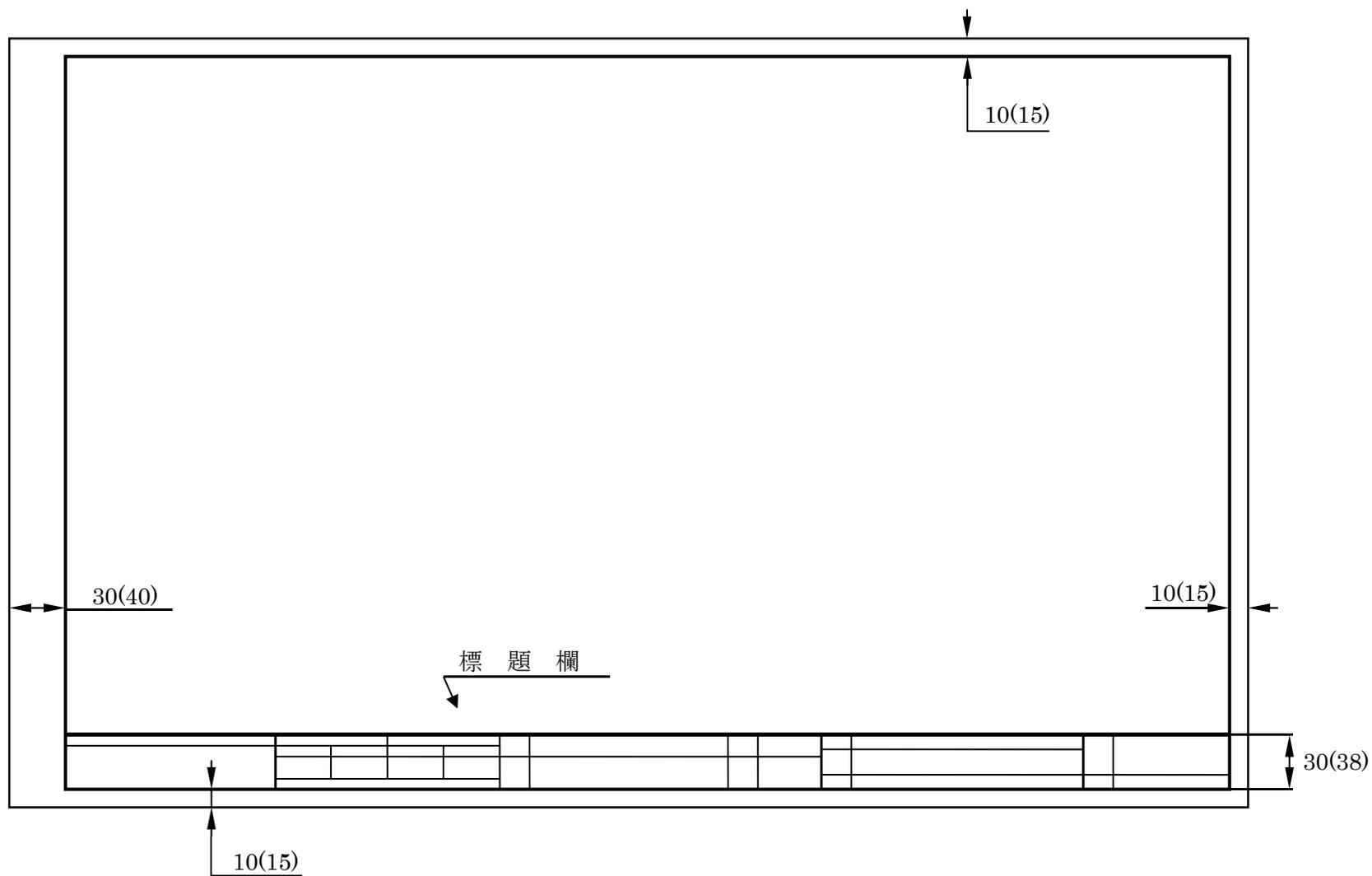
原図には、枠取りをしなければならない。
枠取りの線の太さは、0.7mm 程度とする。
〔図 1 図面の枠取り〕参照。

(2) 標題欄

原図に標題欄を設け、次の事項を記入する。
〔図 2 標題欄〕参照。

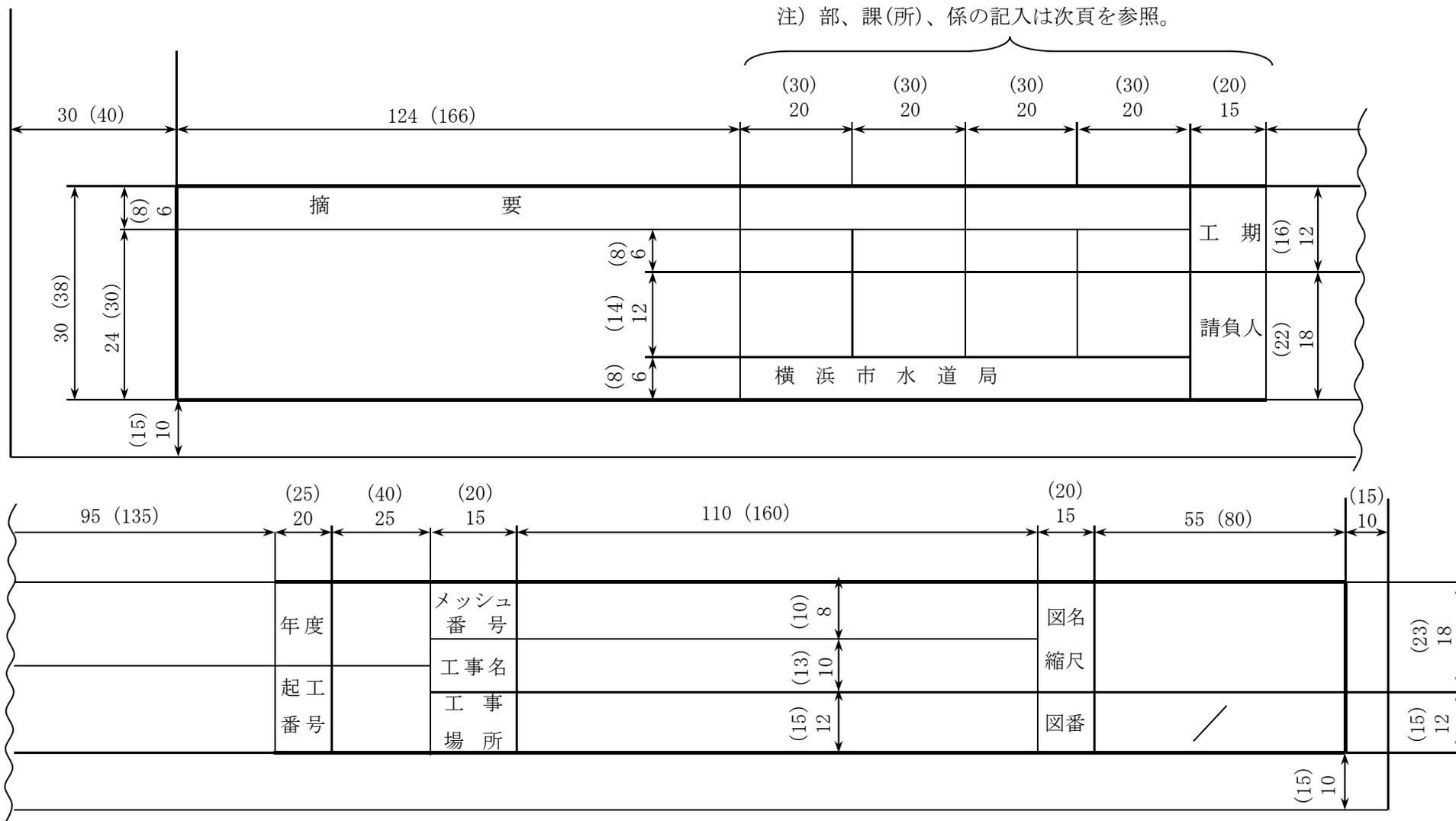
- ア 施工年度
- イ 起工番号
- ウ 工事名
- エ 工事場所
- オ 図面名称と縮尺
- カ 図面枚数と番号
- キ 工事期間
- ク 請負人名と現場代理人氏名
- ケ 局名、部、課、係
- コ メッシュ番号【大メッシュ (2000m×1500m 区分) 及び小メッシュ (250m×250m 区分)】
- サ 摘要欄
監督員が指示する内容

図1 図面の枠取り (A1、A2 規格判)



注1) ()内は、A1判の寸法を示す。注2) 線の太さは、外0.7mm、内0.5mmとする。注3) 寸法・単位 mm

図2 標 題 欄 (A1、A2判)



注1) ()内は、A1判の寸法を示す。注2) 線の太さは、外0.7mm、内0.5mmとする。注3) 寸法・単位 mm

注) 部、課、係の記入の例

他については、担当事業所の指示による。

(例 1) ○○工事課の場合

設 計 係		工 事 係	
係 長	設 計	主任監督員	担当監督員
横浜市水道局 配水部		○○工事課	

(例 2) ○○水道事務所の場合 (係名の区分は適宜)

係		係	
係 長	設 計	主任監督員	担当監督員
横浜市水道局 給水サービス部		○○水道事務所	

(例 3) 工業用水課の場合

設 計 工 事 係		設 計 工 事 係	
係 長	設 計	主任監督員	担当監督員
横浜市水道局 施設部		工業用水課	

(例 4) 建設課の場合

設 計 係		工 事 係	
係 長	設 計	主任監督員	担当監督員
横浜市水道局 施設部		建設課	

- 注1) 工期の記入(例) 令和元年5月10日～令和2年2月12日
- 注2) 請負人欄は、請負人名と現場代理人の氏名を記入する。
- 注3) メッシュ番号及び工事場所は、設計図書等に記載されている大メッシュ番号と小メッシュ番号、及び工事場所を記入する。ただし、同一工事名において工事路線が複数ある場合については、この限りではないので「第3 工事区分による完成図の製図」を参照。
- 注4) 工事名は、設計図書等に記載の工事名を記入する。
- 注5) 図番は、斜線の下側に総枚数、上側に図面番号を記入する。
- 例 1/15 3/15

第3 工事区分による完成図の製図

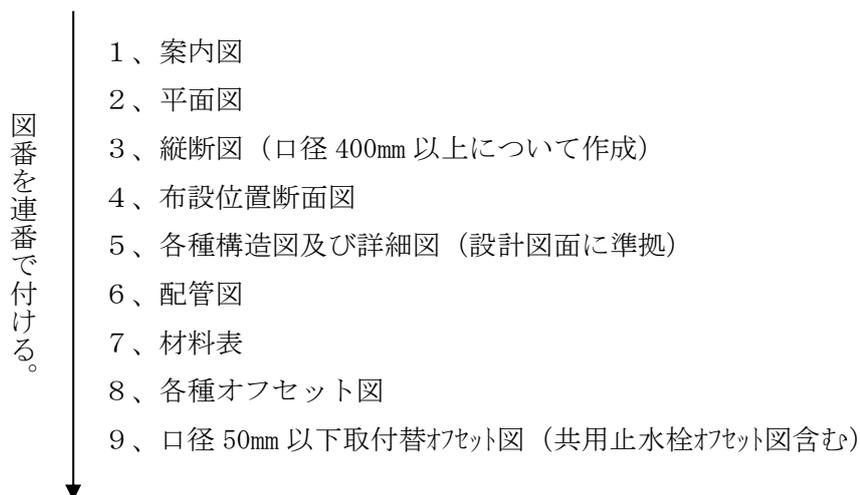
1 管新設工事及び既設管撤去工事

(1) 完成図の綴じ方及び標題欄について

ア 各種完成図の綴じ順を下記に示す。

工事場所が1地点の場合

(工事名例：〇〇町〇丁目口径〇〇mm (から〇〇mm) 配水管〇〇〇〇工事)

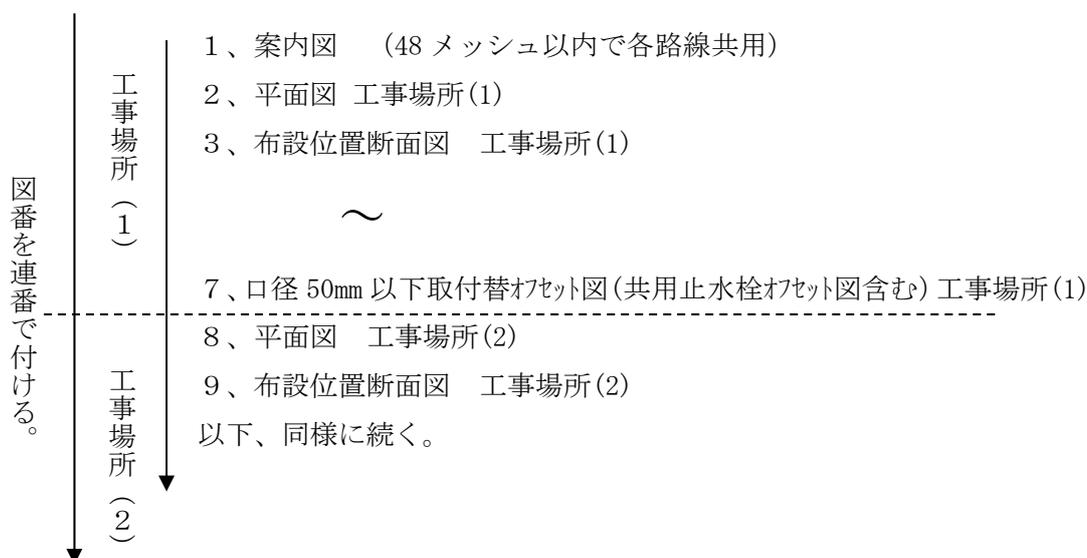


※ 「5 各種構造図及び詳細図」の綴じ込み順は監督員の指示により変更できる。

※ 地盤改良、残置仮設等の詳細図は監督員の指示により作成する。

同一工事名で工事路線が複数ある場合

(工事名例：〇〇町ほか〇か所口径 100mm から 200mm 配水管〇〇〇〇工事)



イ 同一工事名で工事路線が複数ある完成図の標題欄記入について下記に示す。

案内図の表記については、先に示した通り設計図書等に準ずる。その他平面図等の標題は、その紙面で表している工事場所に対応した表記とする事。例えば工事場所(1)の平面図標題欄は、工事場所(1)のメッシュ番号、工事場所となる。場所については、その路線の始点、終点を表記すること。(図面作成例参考)

1-1 各完成図の作図について

(1) 案内図

ア 図面の配置

案内図は、紙面に方位等の必要事項をバランスよく配置し全面を使用する。

イ 縮尺

原則として、局職員が提供する 1/5000 の市内地形図を使用する。

ウ 記入範囲

記入範囲は、工事場所が容易に理解できるよう主要な施設、鉄道、道路、河川等目標となるものを含んだ範囲とし、設計図と同様にメッシュ線を記入する。(図面作成例参照)

エ 記入項目

(ア) 方位と縮尺

図面は、紙面の上側を北とし、方位、縮尺を記入する。

(イ) メッシュ番号

大メッシュ番号及び小メッシュの番号を設計図と同様に記入する。

(図面作成例参照)

オ 工事場所

(ア) 工事場所が 1 地点の場合は、当該工事地点を円で囲い引出し線により「工事場所」と記入する。

(イ) 同一工事名において、工事路線が複数ある場合は「工事場所(1)」「工事場所(2)」と表現する(設計図書の区分、路線順に準ずること)。

(2) 平面図

水道配管平面図(以下、1/500 平面図)を参考に作図すること。

1/500 平面図は担当監督員が請負人に貸出す。請負人は 1/500 平面図の取扱いに注意を払い完成図作成後、速やかに監督員に返却すること。1/500 平面図の貸出日、返却日を「工事打合せ簿」に記録すること。

ア 図面の配置

平面図は、図面の上が北となるように配置し方位を記入すること。

イ 縮尺

縮尺は1/500とし、縮尺とスケールバー（10m）を記入する。

ウ トレース又はスキャンニングの範囲

地形図のトレース又はスキャンニングにあたっては、幅を工事路線（道路）の両側とも10～20m程度とし家名、番地を1/500平面図に準じて記入する。

なお、路線を分割する場合の分割線の表示はアルファベットの大文字とする。

エ メッシュ番号

工事場所の対象となる大、小メッシュ番号を表記する。複数のメッシュが対象となる場合は、メッシュ境界線を表現し、大、小メッシュ番号も記載する。

オ 中心線測量の測点と成果

設計図面に記されてある中心線測量の中心線等と測点番号を記入する。

なお、中心線と測点が施工時の実施測量により変更となりその成果が承認されている場合は、当該実施測量の成果に基づき記入する。

カ 新設管路の記入

平面図には、新設管路を管路図で記入する。

始点、終点の住所を設計図書等に準じて記入する。

また、紙面上側を北とし、方位を記入する。

注) 位置記入に際しては、より正確を期するよう十分留意して製図のこと。

(7) 管路図等の記入項目

a 管路、管種、口径の表示

新設管路は「実線」とし、その上又は下側に指定の「管種別略称」と「口径」を記入する。なお、口径表示は「φ」、寸法表示「m」を除く。

b 弁・栓類等の表示

仕切弁、消火栓等の弁・栓類、片落ち管等は指定の「管路記号」で表示する。

なお、不断水用の簡易仕切弁については表示しない。ただし、弁室を設置した場合は表記する。

c 弁・栓類等の引出し線による表示

仕切弁、消火栓等の弁・栓類及び二受T字管、片落ち管は、それぞれ「引出し線」により口径と指定の「略称」又は「名称」を記入する。

この場合、弁・栓類には、始点から終点に向かって「第4 表示記号」欄で指定の通し番号表記で種類別につける。

キ 区間長の表示

新設管路は、次の地点を基点とし「引出し線」と「寸法線」を記入し、その寸法線上にその区間の「管心長」を記入する。

(区間長の区分地点)

(7) 既設管と連絡部分との始終点

(イ) T字管の分岐点

(ウ) 仕切弁の中央点

ただし、区間長に弁体長は算入しない。

- (エ) 消火栓、空気弁付消火栓、空気弁等の中央点
フランジ付きT字管のフランジ分岐点をさす。
- (オ) 片落ち管の口径の小さい方の接合点
- (カ) その他区間長表示をすることが望ましい地形の変化点
注) 管心長の算定は、管弁・栓類材料規格表による。

ク 連絡部の既設管路（弁・栓類を含む）

連絡部の既設管路は「破線」とする。連絡部の引出し線部に「施工年度」「工事起工番号」「管種別略称」「口径」「D.P.」「ライニング有無」を記入する。また、始点から終点に向かって「第4 表示記号」欄で指定の表記で通し順位をつける。（連絡A、連絡B、連絡C、連絡D・・・）

ケ 継手情報・幹線名の表示

継手情報は、継手の形式を表示する。形式が複数ある場合は、布設延長が長い形式とする。幹線名は、口径400mm以上を対象とし、名称については監督員に確認して表示する。

コ 使用廃止・休止管路の記入

(7) 管路の表示

使用廃止管路（撤去不可能な管）・使用休止管路は、破線の上に「波線」を入れ表示する。

(イ) 管種、口径、区間長の表示

使用廃止管路・使用休止管路を明確に表示し、起終点に「引出し線」と「寸法線」を記入して、その寸法線上に指定の「管種別略称」「口径」と「延長」を記入する。この場合の延長は路上の測定延長とする。

サ 撤去管路の記入

(7) 管路の表示

撤去管路は、実線の上に「波線」を入れ、弁・栓類等の略称を表示する。

(イ) 管種、口径、区間長の表示

既設管撤去工事が新設工事と同一工事により施工し平面図を共用する場合は、撤去管路の起終点から「引出し線」と「寸法線」を記入し、この寸法線上に指定の「管種別略称」「口径」「延長」及び、弁・栓類の「略称又は名称」「基数」を記入する。

シ 布設位置断面図の位置表示

布設位置断面図の位置表示は、工事の始点から終点に向かって「第4 表示記号」欄で指定の「布設位置の断面位置表示」により表示する。

ス 布設位置のオフセット表示

布設位置をオフセット表示する場合は、支距（O.P）については、官民境界を基点とし文字表示側からの距離とする、埋設深さ（D.P）については路面高を基点とし「第4 表示記号」欄で指定の「布設位置のオフセット表示」により表示する。

セ 各種詳細図の位置表示

連絡、伏越、迂回、排水ヶ所等、詳細図の位置表示は、「第4 表示記号」欄で指定の「詳細図等の位置表示」で表示する。

ソ メッシュ境界線の表示

メッシュ境界線の表示は、250mメッシュ線（縮尺 1/500）を基準とし、その線上に大メッシュ番号小メッシュ番号を記入する。

(3) 縦断図（口径 400mm 以上の工事から作成）

ア 図面の配置

縦断図は、工事の測点、配列起点（測点 No. 0）を左とし、平面図及び縦断図を対応させること。

イ 縮尺

縮尺は、縦 1/100、横 1/500 を標準とする。ただし、設計図がその他の縮尺である場合は、その縮尺によることができる。

ウ 縦断図への記入項目

(7) 縦断図の数値表示欄

縦断図の数値表示欄は、左（下欄）より次の順により記入する。

- a 曲線（中心線測量）
- b 測点（20m間隔を標準とする）また、平面図にも記入する。
- c 単距離
- d 追加距離
- e 土被り
- f 地盤高
- g 管心高
- h 管勾配
- i 管路の変化点（曲管垂直部）
- j 弁・栓類、分岐・連絡か所

注）地形図に伴い、縦断図を分割した場合の数値表示欄は、分割した各図にすべて記入する。

(4) 水準点

路線中の水準点を指定の記号により記入する。

エ 縦断図内の配管図の記入

「(2) 平面図 カ 新設管路の記入」に準じ記入する。

オ 構造物等の記入

他企業の占用物や構造物等を記入する。

(4) 布設位置断面図

ア 図面の配置

布設位置断面図は、平面図内に記入された指定の「断面位置表示」の符号の順に記入する。

イ 縮尺

縮尺は、1/100 を標準とする。

ウ 間隔と位置

布設位置断面図の間隔と位置は、40mに1ヶ所程度を標準として選定し製図する。

なお、位置選定にあたっては、次の事項に注意する。

- (ア) 一般的には、弁・栓類間の中央附近を選定する。
- (イ) 布設位置が変化する地点は、40mの標準以外に変化地点を追加して記入する。
その他、監督員の指示による。
- (ウ) 平面図に記された断面位置方向にあわせる。

注) 布設位置断面図は、平坦な地域の幅員の広い道路等で他の地下埋設物の位置等を記入する必要のない場合は、「(2) 平面図 ス 布設位置のオフセット表示」により平面図内に記入することにより省略することができる。

エ 断面図の記入項目

(ア) 道路全幅員

歩車道の区分のある道路は、区分して寸法線により表示する。

道路附帯施設のU字溝、L形溝等は判明できるよう製図する。

(イ) 道路両側の状況

道路両側の番地、家名等を記入する。

法、崖、擁壁、塀等は判明できるよう製図する。

(ウ) 地上、地下施設物

道路内の電柱、街路灯、ガードフェンス等及び、各種地下埋設物や構築物は、試掘調査等により判明できた範囲で大きさ、長さ、深さを記入し、指定の記号をつけ表示する。
また、設計図書に記載された施設についても記入する。

(5) 各種構造図及び詳細図

ア 図面の配置

各種構造図及び詳細図は、設計図面に準拠して実施工とあわせ、平面、断面、正面、側面等を相互関連づけ順序よく詳細に製図する。

イ 縮尺

縮尺は設計図面に準拠する。

ウ 主な構造図、詳細図等

- (ア) 管路における一般的なもの
 - a 各種弁室築造工図（設計標準図は除く。）
 - b 連絡部詳細図
 - c 伏越部詳細図

- d 排水部詳細図
- e 管保護工図（設計標準図は除く。）
- f 管基礎工図

注1) くい基礎の場合は、くいの配置と名称、くい径及び、くい長を記入する。

注2) 鉄筋コンクリートの場合は、配筋図を記入する。

(イ) 特定な施設

- a 配水池
配管、配筋、基礎等詳細図
- b ポンプ場
配管及びポンプ基礎等詳細図
- c 橋梁添架・水管橋
配管、基礎、管保護工等詳細図
- d 循環式地下貯水槽 配管、構造等詳細図

(ウ) 推進、シールド工等の管路

- a 立坑
配管、管保護工、配筋、立坑構造図等の詳細図
- b 推進工
配管、管保護工、サヤ管等の詳細図
- c シールド工
配管、一次及び二次覆工等の詳細図
- d 共同溝
配管

(エ) 付帯施設（水道管工事以外の施設）

- a 擁壁、石積（展開図を含む）
- b 排水設備
- c 造園
- d 電路、照明機器
- e その他（地盤改良・残置仮設物等）

(6) 配管図

ア 図面の配置

配管図は、別紙面を使用することを原則とするが、材料表と同一紙面としてもよい。

この場合、配管図を左側又は、上側とし材料表は右側又は、下側に配置して平面図と同方位にする。

イ 縮尺

縮尺は Not to scale (NTS) とするが、「文字の大きさの最小値」を厳守すること。

(図面作成例参照)

ウ 記入項目

配管図は、施工成果に基づき路線の形態及び配管の状態（曲管の水平、垂直使用等）が判明できるよう平面図と相互関連（メッシュ境界線、接続線を表記）させて製図する。また、他企業管や構造物等についても記入する。

基本的に平面図と同一配置とするが、作図上の理由から配管図を分割する場合は、分割線の表示をカタカナとする。

(ア) 新設管路

新設管の配管は、指定の「配管記号」により製図する。

a 直管

直管は、記号の上又は下に「○」を書き、○の中に使用数量を記入する。

なお、2本以上連続使用した場合は、1本ごとを配管記号で製図しなくてよい。

また、○の前に鋼管の場合は、「SP」、ステンレス鋼管の場合は「SUS」と記入する。

b 切管

切管は、引出し線により次の事項を記入する。

(a) 「切管口径×管長」

(b) 管種

• 鋳鉄管 (DIP)

T、A、K、U等

NS、GX、S50、S、US、UF等（離脱防止継手）

• 鋼管 (SP)

• ステンレス鋼管 (SUS)

(c) 切管の形態

• 鋳鉄管 (DIP) 受口付 → U、両端挿口 → ⊥

(記入例) GX100×1,000 U GX100×1,000 ⊥

K200×1,000 U K200×1,000 ⊥

US1,000×2,000 U US1,000×2,000 ⊥

S50×2,200 U (S50形は、この表記とする)

• 鋼管 (SP)

SP1,000×2,000 切

• ステンレス鋼管 (SUS)

SUS1,000×2,000 切

c 異形管

異形管は、引出し線により次の事項を記入する。

なお、2個以上使用した場合は、末尾に「○」を書き、○の中に使用数量を記入する。

(a) ニ受T字管・排水T字管

「本管口径×支管口径」を記入する。

(例) 300×150 500×300

(b) 片落管

「大口径×小口径」を記入する。

(例) 150×100 800×500

(c) 曲管

度数・状態(「H;水平」「V;垂直」に区分する。)を記入する。

(例) 11° 1/4(H) 22° 1/2(H) 45° (H)

45° (H) - ② 45° (V) - ②

(d) フランジ短管

「L;長さ」を記入する。

(例) L=100 L=150 L=200

(e) 不断水用割T字管

「本管口径×取出し管口径」「名称」「材質(略称でもよい)」「製造業者名」を記入する。

(例) 200×150 弁付不断水用割T字管 (F C D)

○○○○○社

500×300 不断水用割T字管 (S S)

○○○○○社

(f) 可撓管

「口径×長さ」「名称」「材質(略称でもよい)」「製造業者名」を記入する。

(例) 300×1,000 ベローズ形伸縮管 (S S)

○○○○○社

500×2,000 ベローズ形伸縮管 (S S)

○○○○○社

(g) その他・特殊材料

「口径×長さ」「名称」「材質(略称でもよい)」「製造業者名」等を記入する。

※ (a) ~ (d) 鋼製品の場合は、最初に「SP又はSUS」と記入する。

d 弁・栓類等

仕切弁、消火栓等の弁・栓類は、引出し線により次の事項を記入する。

(a) 仕切弁

「口径」と指定の「略称」又は「名称」及び「材質(略称でもよい)」「回転数(口径400mm以上)」を記入し「通し番号」をつける。ただし、簡易不断水用仕切弁の「通し番号」は不要。

なお、口径400mm以上は「製造業者名」を記入する。

(例) 100 S V (F C D) N03

200 S V (F C D) N02

300 S V (F C D) No. 1

500 S V (F C D) No. 5〇〇回 (〇〇〇〇〇社)

1,000 B V (F C D) No. 2〇〇回 (〇〇〇〇〇社)

(b) 消火栓・空気弁

「口径」と指定の「略称」又は「名称」及び「材質（略称でもよい）」を記入し「通し番号」をつける。

(例) 75 F H (S) (F C D) No. 2

100 A V (F C D) No. 3

(c) 洗浄栓

「口径」と指定の「略称」又は「名称」及び「材質（略称でもよい）」を記入し「通し番号」をつける。

(例) 75 F H (d) (F C D) No. 1

75 F H (D) (F C D) No. 2

(d) その他、弁・栓類

「口径」「名称」「材質（略称でもよい）」「製造業者名」を記入する。

(イ) 連絡部の既設管（弁・栓類を含む）

連絡部の既設管は、「破線」で管路を表示し、その上又は、下側に指定の「管種別略称」、「口径」を記入する。また、「ライニングの有無」も記入する。

(ウ) 使用廃止・休止管、撤去管

新設工事の図面には記入しない。ただし、新設工事と同一工事により施工し、特に新設管との相互関係を明確にする必要がある場合は、「(2) 平面図 コ 使用廃止・休止管路の記入及び サ 撤去管路の記入」に準じ該当事項を記入する。

(エ) 各配管状態の表示

次にあげる配管箇所には、その配管状態を表示する。

a 連絡箇所 ; 「連絡」

b 伏越箇所 ; 「伏越」

c 上越箇所 ; 「上越」

d 橋梁添架箇所 ; 「橋梁添架」

e 河川横断箇所 ; 「河川横断」

f その他・特殊ヶ所

(オ) 接続線の表示とメッシュ番号

配管図は、250mメッシュ（縮尺 1/500 メッシュ）ごとに接続線の表示を行い、大メッシュ番号小メッシュの番号を記入する。

(7) 材料表

ア 材料表の配置

材料表は他の図と別紙面とすることを原則とするが、配管図と同一紙面としてもよい。

この場合、配管図を左側又は、上側とし、材料表は右側又は、下側とする。

イ 材料表の区分及び記載要領

材料表は、工事内容に応じて次の種別と順序により、それぞれにサブタイトルをつけ記載する。

(ア) 総合内訳表

総合内訳表は、管種・口径別延長、弁・栓類の種別、基数を図3の内容により必要とする欄を設け、口径の小さいものから口径別に記載する。工事路線が複数ある場合は、すべての路線の内訳を総合して、工事場所(1)紙面に記載する。

(イ) 新設管等材料表

新設管等材料表は、新設した材料を図4の内容により欄を設け、次の事項に留意して記載する。

a 品名は、管種(DIP(GX)、DIP(K)等)又は材質(FC、FCD、SS等)と名称と記入する。

仕切弁とバタフライ弁及びソフトシール弁、立形と横形、継手(GX、NS、K、S、フランジ等)を、又空気弁については、単口、急速等の区分を記入する。

b 記入順位は、口径の小さいものから口径、管種、弁・栓類別に表を区分して集計する。又、同口径で管種が異なる場合にも表を区分する。区分した表題に管種を記載することにより、品名欄の管種を省略して表記すること。弁・栓類の別表は管種表の後に口径別に区分して集計する。又、共通物品(明示シート等)については、口径別に弁・栓類と同表に表記する。(図面作成例参照)

c 口径ごとの記入順位は、直管、切管、異形管、弁・栓類等、共通物品等の順位による。なお、使用したボルトは、材質を記載する。

d 使用する材料で口径400mm以上は、管種、弁・栓類の製造業者名を記入する。

e 品名、形状・寸法、単位、付属品等の表記は局発行の「土木工事資材等単価表」等に準じて表記する。

f 小型仕切弁室、洗浄栓室の築造材料摘要欄に「横浜市水道局設計標準図」名称欄記載の土被りを表記する。(図面作成例参照)

g 特殊機器については末尾に記入する。

(ロ) 仮設管等材料表

仮設管等材料表は、仮設工事に使用した材料を新設管等材料表の記入方法に準じて図4の欄により記入する。

(ハ) 仮設撤去管等材料表

仮設撤去管等材料表は、仮設工事として施工した管を撤去した場合に新設管等材料表の記入方法に準じて図4の欄により記入する。

(ニ) 既設撤去及び使用廃止管

「既設撤去及び使用廃止管」表は、既設管の撤去工事を施工した場合、又当該工事

において使用廃止管扱いになるものについての管種、口径別延長並びに、弁、栓類の基数を記入する。

ウ 各種材料表の細部記入要領

新設管、仮設及び仮設撤去管の材料表の記入は、次の要領による。

(ア) 切管の記入方法

ダクタイル直管を切使いした場合は、受口付きのものを「U」、両端さし口のものを「⊥」と表示し、その使用内容により次のように記入する。

a 直管1本を全部切使い使用した場合

Uを先ず記入し、引続いて1本分の⊥を記入する。この場合、摘要欄で1本分をくくって「1本」又は「①」と表示する。

b 残管のある場合

使用したU又は⊥を記入し、摘要欄に残管を記入する。この場合、「残・U又は⊥」と表示を行い、その長さを記入する。なお、使用した切管が2個以上ある場合は、aと同様にくくって表示する。

鋼管については、U、⊥等の表示方法はないが上記に準じて記入する。

(イ) 特定な異形管の記入方法

a ニ受T字管及び排水T字管

(a) 本管口径と支管口径が同じ場合

本管長と支管長との合計を記入する。

(b) 本管口径と支管口径が異なる場合

本管長を記入し、摘要欄に「支管」と明記して、支管口径と支管長を記入する。また、支管長は各口径別延長に加算する。

b 不断水用割T字管

支管口径のみを記入する。(製造業者名を記入する。)

c フランジ付きT字管及びフランジ短管

空気弁及び消火栓等設置のためのフランジ付きT字管の支管長は記入しない。

d 仕切弁副管A、仕切弁副管B

仕切弁副管Aは、本管長を記入し、支管長は記入しない。

仕切弁副管Bの管長は、記入しない。

e 片落ち管

口径の大きい方を基準とし、管長を記入する。

f 継輪

管長は、記入しない。(但し、SⅡ、NS、GX、S形を除く。)

g 伸縮管

型式及び名称、材質、管長、製造業者名を記入する。

(ウ) 弁・栓類等

a 副弁として使用した仕切弁は、本管仕切弁の次に記入し、形状寸法欄に「副弁」と

明記する。なお、不断水連絡で使用した場合は不断水用仕切弁と明示する。

- b 空気弁用の丸ハンドル付仕切弁、フランジ短管は、空気弁の次に記入し、丸ハンドル付仕切弁については、形状寸法欄に「空気弁用」と明記する。
 - c 消火栓用の補修弁、フランジ短管は、消火栓の次に記入する。
 - d 弁室用の材料は、当該使用した弁・栓類（仕切弁、消火栓、空気弁等）毎に区分して、副弁、補修弁等の次に記入する。この場合、形状寸法欄に「仕切弁用」「消火栓用」「空気弁用」と明記する。
- (エ) 75mm 以下の新設工事において、私道内に管布設した場合内訳表に“公道、私道”欄を設け消火栓欄を洗浄栓欄に変更する。（図面作成例参照）
- (オ) 水道用ステンレス鋼管の表記については、波状ステンレス鋼管を“C S S P”ステンレス鋼管を“S S P”表記に統一する。（すべての図面に適応）

図3 総合内訳表の標準寸法

口径 300mm 以下の場合の 1 例

	25	30	30	35	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	30	30	30	30
内 径 mm	D I P (G X)	D I P (K)	総 延 長	仕 切 弁				消 火 栓				空気弁付消火栓		仮 設	仮設撤去	撤 去	使用廃止管	
	m	m	m	新 設	仮 設	仮 撤	撤 去	新 設	仮 設	仮 撤	撤 去	新 設	撤 去	m	m	m	m	
12																		
6	150																	
6	200																	
6	300																	

- 注1) 寸法は標準寸法を示す。
- 注2) 仕切弁、消火栓、空気弁付消火栓の新設、仮設等の区分欄は、工事内容により設定する。
- 注3) 仮設、仮設撤去等の欄は、工事内容により設定する。
- 注4) その他、項目を追加することができる。

口径 400mm 以上の工事がある場合の 1 例

内 径 mm	D I P (N S)	D I P (K)	S P	総 延 長	弁		空 気 弁		消火栓
					仕切弁	バクフライ弁	A V	補修弁	
100					3				
150					3				
300					1				
400							1		
600							3	2	2

図4 各種材料表の標準寸法

単位 = mm

品名	形状寸法	数量	単位	単長	延長	摘要

注) 規定寸法は標準であるため、紙面の大きさにより多少増巾はよい。

(8) 各種オフセット図

各種オフセット図は、配水管等の布設位置及び仕切弁等付属設備の配置位置を明確にし、事後の維持管理に支障を生じないようにするものである。

ア 図面の配置

図面の上が北となるよう配置する。

また、連絡部分、各種弁位置、消火栓等の位置のオフセット図は、他の図とは別紙面とし、各種オフセット図を複合して製図する場合は、それぞれのサブタイトルを表示し、平面図に記入された符号の順に製図する。

イ 記載要領

オフセットの縮尺は1/200とし、管路は新設を実線、既設を破線で記入する。

また、大メッシュ番号と小メッシュ番号もあわせて記入する。

ウ オフセット測定場所の基準

(ア) T字管の分岐点（口径75mm以上）

(イ) 連絡ヶ所（引出し線で表示）

(ウ) 曲管45°以上（口径400mm未満）、11° 1/4以上（口径400mm以上）

ただし、他の埋設物に伴う短距離の切廻しを除く。また、測定場所が同一図面内に多数存在する場合「布設位置オフセット表示（平面図 DP, OP）」を併用して測定場所を減らしてもよい。

(エ) 新設管の管末（当該工事の施工により出来た既設管の管末を含む）

(オ) 使用廃止管及び使用休止管の占用位置（始点、終点）

(カ) その他、変化点でオフセット表示が望ましい点

注) 一般の道路平行部分の布設位置オフセットは、「布設位置オフセット表示」により平面図内に直接記入することができる。

(キ) バタフライ弁、仕切弁；引き出し線により、「口径」と指定の「略称」又は、「名称」を記入し「通し番号」をつける。

(ク) 消火栓、洗浄栓、空気弁付消火栓等は引き出し線により、「口径」と指定の「略称」を記入し「通し番号」をつける。

(ケ) 空気弁

(コ) 流量計

(ク) その他の付属施設のボックス

エ オフセット測量方法と製図

「配水管及び仕切弁等オフセット測量基準」による。

オ 基準点、基準線の選定が困難な場合

測量地点が宅地造成中や道路拡幅工事中等により基準（点、線）選定が困難な場合は、「配水管及び仕切弁等オフセット測量基準」を参考に監督員と創意工夫し図面作成を行うこと。

(9) 口径 50mm 以下取付替オフセット図（共用止水栓オフセット図含む）

ア 目的

本管取付替位置、既設管接続位置（特に宅地内、外の位置）を明確にし、及び新設配水管等の布設位置をより明確にする。

イ 図面の配置、縮尺

平面図と相互関連して作図すること。（北方向、配置を同一にする）

縮尺は Not to scale（N T S）とするが、「文字の大きさの最小値」を厳守すること。

（図面作成例参照）

ウ 測定場所及び記入方法

給水管取付替場所、関連する配水管の弁・栓類、及び監督員の指定した場所を測定場所とし、各間の延長を測定する。

その際、管延長ではなく測定箇所間の直線延長なので混同しないようにすること。

配水管の弁・栓類の表示記号は配水管「(2)平面図」に準ずる。

給水管取付替場所及び監督員の指定した場所を「●」とする。測定した延長を「m」を省略して「図面作成例」を参考に記入すること。

エ 取付替番号について

原則として、設計図書の付与番号に準ずること。また、1番から連番で工事路線の始点から終点まで付番すること。

同一工事名で複数の工事場所がある場合でも、同様に1番から付番すること。

（例）同一工事名で工事場所(1)、工事場所(2)、工事場所(3)がある場合の付番記入例

工事場所(1) 1, 2, 3

工事場所(2) 4, 5, 6, 7, 8

工事場所(3) 9, 10, 11, 12, 13

また、各工事場所(1)、(2)、(3)の図面上に記入されていなかった番号については、連番である最後の次の番号14から付していくものとする。

オ 止水栓（施工上一時使用した止水栓は除く）

施工後操作できる止水栓を設置した場合のみ設置位置を表記する。

カ 共用止水栓オフセット図（丁字分岐管は除く）

前記「(8)各種オフセット図」の要領で共用止水栓を対象に作成する。記入項目は「図面作成例」を参考にすること。同一紙面に収まらない場合は、別紙面に表記してもよい。

2 仮設工事

仮設工事及び仮設撤去工事等は、新設工事と区分し、別紙面としなければならない。

ただし、これらの工事が新設工事と同一工事により施工された場合は、案内図のみ共用することができる。各完成図の作図については「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準ずる。

(1) 仮設工事完成図の種類

- ア 案内図
- イ 平面図
- ウ 布設位置断面図
- エ 各種構造図及び詳細図
- オ 配管図
- カ 縦断図
- キ 各種オフセット図

(2) 仮設撤去工事完成図の種類

ア 案内図

「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準ずる。

イ 平面図

- (ア) 図面の配置
- (イ) 縮尺
- (ウ) トレースの範囲

上記については、「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準ずる。

(エ) 記入項目

a 管路図表示

撤去管路は、「実線に波線」で表示を行い、その上又は、下側に「仮設管撤去」と明記し、指定の「管種別略称」と「口径」を記入する。

又、弁・栓類についても、指定の「管路記号」により表示する。

b 撤去管表示

撤去管図は、新設管に準じ製図する。

3 管更生工事

(1) 案内図

「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準ずる。

(2) 平面図

- ア 図面の配置
- イ 縮尺
- ウ トレースの範囲

上記については、「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準ずる。

エ 記入項目

(ア) 更生管路表示

a ライニング工事管路

管路（作業坑内の新管を含む）は、「実線」とし、その上又は、下側に「ライニング工事」と明記し、指定の「ライニング塗装記号」を、次に「既設管」と明記し、指定の「管種別略称記号」と「口径」を記入する。

なお、更生工事に使用した材料は、「材質」「製造業者名」等を記入する。

b 内挿管工事管路

管路（作業坑内の新管を含む）は実線とし、その上又は下側に既設管の「管種別略称記号」（指定）と「口径」次に（ ）書きで内挿管の「管種別略称記号」（指定）と「口径」を記入する。

例：CIP-38 インチ（SP-900）

なお、内挿管（鋼管等を使用）の配管図を平面図に記入する場合は、「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準じ製図する。

(i) 作業坑の位置表示（残置のみ）

作業坑の位置は、「引出し線」を出して「立坑」と明記し、「通し番号」をつける。

(j) 区間長の表示

区間長は、「更生管路」と「新設管路」に区分し、次の地点を基点として「引出し線」と「寸法線」を引き、その寸法線上に延長等を記入する。

a 更生管路

立坑間の更生管路（既設管）を始終点とし、管心長を記入する。

b 新設管路（立坑内の新設管を含む）

既設管と連絡部との始終点とし、「新設管」と明記して、指定の「管種別略称記号」と「口径」「管心長」を記入する。

なお、その他の区分地点については、「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準ずる。

(k) メッシュ番号

(l) 接続線の表示

(m) 布設位置断面図の位置表示

(n) 布設位置のオフセット表示

(o) 各種詳細図の位置表示

(p) 既設管路（弁・栓類を含む）

必要に応じ、「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準じて記入する。

(3) 布設位置断面図

布設位置断面図は、立坑ヶ所を対象として製図する。

なお、その他については、「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準ずる。

(4) 布設位置オフセット図

(5) 各種詳細図

(6) 配管図

(7) 材料表

上記については、「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準ずる。

4 坑内管新設工事

シールド等工事の各種図面は、「1 管新設工事及び既設管撤去工事」に準ずるが、次の内容を付け加える。

(1) 立坑の表示

立坑の種類及び残置した場合は、その部分を所定の縮尺で表示し、引出し線等により、立坑名称、深さ及び構造を記入する。

(2) シールドのセグメント線等の表示

シールドのセグメント線、推進の鞘管線等を所定の縮尺により記号表示する。

なお、次の内容を引出し線等により記入する。

ア シールド工事

セグメント材名称と外径

イ 推進工事（鞘管使用）

配管図に準じ、鞘管材料名、管内径、単長、本数及び延長を記入する。

ウ 充填材等の規格

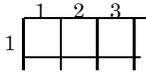
(3) 中心線測量成果図

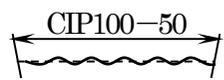
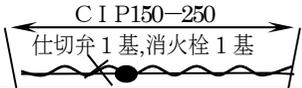
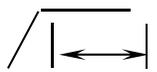
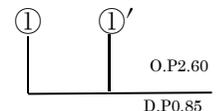
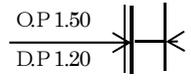
中心線測量成果図は、最末尾とし、他の図面とは別にする。

シールド等の工事においては、工事完了後の中心線測量の成果を製図する。あわせて平面図に中心点を表示する。

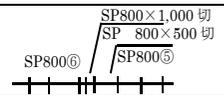
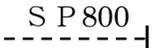
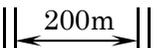
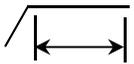
第 4 表 示 記 号

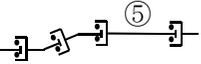
1 各種図面に使用する表示記号等の標準

区分	No.	種 別	表 示 方 法	摘 要
			表 示	
案 内 図	1	サブタイトルと下線	<u>案 内 図</u>	
	2	方 位	N 4 ↑	
	3	縮 尺	<u>S=1/5000</u>	
	4	地形図のトレース		
	5	大メッシュ番号	4—15	大メッシュ： 縮尺 1/5,000 市内配水管図メッシュ
	6	小メッシュ線と番号		小メッシュ： 縮尺 1/500 配管平面図メッシュ
	7	工 事 場 所		図面作成例参照
平 面 図	1	サブタイトルと下線	<u>平 面 図</u>	
	2	方 位	N 4 ↑	
	3	縮 尺	<u>S=1/500</u>	
	4	地形図のトレース		

区分	No.	種 別	表 示 方 法	摘 要
			表 示	
平 面	5	新 設 管 更 生 管	<u>D I P (GX) 200</u>	線上に管種別略称と口径を記入。 仮設管は「仮設」と表示。
	6	既 設 管	----- CIP200	線上に管種別略称と口径を記入。
	7	使 用 廃 止 管 使 用 休 止 管		引出し線、寸法線により管種別略称、口径、延長を記入する。
	8	撤 去 管		引出し線、寸法線により管種別略称、口径、延長、弁類の基数を記入する。
	9	引 出 し 線 寸 法 線		
	10	布設位置の断面位置 表 示		順位はアラビア数字による。 O.P は文字表示側からの距離とする。
	11	布設位置のオフセッ ト 表 示		O.P は OFFSET PIPE の略 D.P は DEPTH PIPE の略。
	12	詳細図等の位置表示		順位は、アルファベット大文字による。
	図	13	仕切弁、小型消火栓、 空気弁等の通し番号	SV FH (S) No.1 AV
14		メッシュ番号	<u>4-15:2-2</u>	メッシュ番号： 大メッシュ番号と小メッシュ番号の組

区分	No.	種 別	表 示 方 法	摘 要
			表 示	
平 面 図	15	接 続 線 (A)		小メッシュの接続線に隣接して表示する。
	16	接 続 線 (B)		1点鎖線を記入する。 ローマ字はアルファベット順による。
	17	側 点 と 中 心 線	No.1 	
	18	立 坑		引出し線により立坑名、番号、構造名を記入。
	19	ベ ン チ マ ー ク	B.M 57.635 	
図	20	シールドセグメント 推 進 靴 管		
	21	新 設 管	<u>D I P (G X) 1 5 0 E P C</u>	直管がエポキシ樹脂粉体塗装の場合は EPC を記入
縦 断 図	1	サブタイトルと下線 縮 尺		案内図・平面図と同様
	2	数 値 表 示 欄		
	3	数値表示欄内数字		
	4	数値表示欄内曲線		曲線の方向により山形を記入。

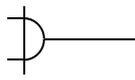
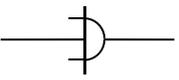
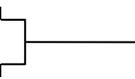
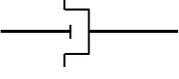
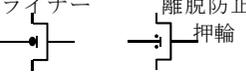
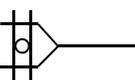
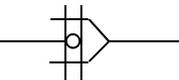
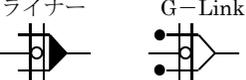
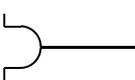
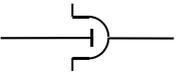
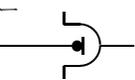
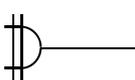
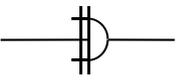
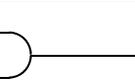
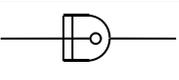
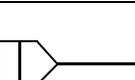
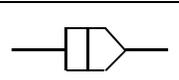
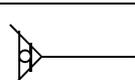
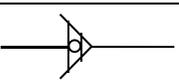
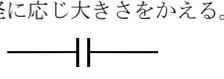
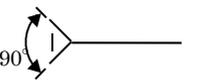
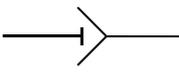
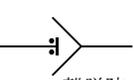
区分	No.	種 別	表 示 方 法	摘 要	
			表 示		
縦 断 図	5	数値表示欄内管勾配	LEVEL 及び %		
	6	縦断図表示線		標高数値	
	7	縦断図内水準点	BM No.1 53.425 	縦断図地盤高線上に記入	
	8	新 設 管			
	9	既 設 管	SP 800 		
	10	支保工及び立坑等の線			
	11	立坑名及び区間長	立坑 No. 1 		
	12	地質及びN値			
	13	引出し線 寸法線			
	布設位置断面	1	サブタイトルと下線縮尺		案内図・平面図と同様
		2	断 面 図		既設埋設物等を記入
		3	断面位置表示	① - ①'	

区分	No.	種 別	表 示 方 法	摘 要
			表 示	
布 設 位 置 断 面 図	4	引 出 し 線 寸 法 線		
	5	新 設 水 道 管	新設 200	管径を記入する。
	6	既 設 水 道 管	C I P 150 ㉔	管種の略称及び管径を記入する。
	7	工 業 用 水 管	200 工水	管径又は形状を記入する。
	8	下 水 管	300 ㉔	
	9	ガ ス 管	150 ㉔	
	10	N T T 管 路	75 ㉔4条	
	11	東 電 管 路	75 ㉔4条	
配 管 図	1	サブタイトルと下線		案内図・平面図と同様
	2	配 管 記 号		
	3	引 出 し 線		
	4	そ の 他		

区分	No.	種 別	表 示 方 法	摘 要
			表 示	
材 料 表	1	各サブタイトルと下線	新設管材料表	
	2	総合内訳表の外枠		
	3	総合内訳表の内仕切線		
	4	各材料表の外枠		
	5	各材料表の内仕切線		
	6	文 字 ・ 数 字		

2 管種別略称及び配管記号等

NO	管 種		継 手	配 管 記 号		備 考	適用呼び径 (mm)	
	名 称	略 称		基 準	接 合 状 況			
1	ダクタイル鋳鉄管	DIP	K 形				離脱防止押輪	75～2600
			T 形				離脱防止押輪	75～200
			K F 形					300～900

NO	管 種		継 手	配 管 記 号		備 考	適用呼び径 (mm)
	名 称	略 称		基 準	接 合 状 況		
1	ダクタイル鋳鉄管	DIP	U F 形				700~2600
			N S 形			ライナー 離脱防止 押輪 	75~1000
			G X 形			ライナー G-Link 	75~400
			S II 形			ライナー 	75~400
			S 形				500~2600
			U S 形				700~2600
			S 5 0 形			ライナー 抜け止め押輪 	50
			P II 形				400~1350
			P N 形			関連する記号は JDPA 規 格書による	300~1500
			フ ラ ン ジ 形	口径に応じ大きさをかえる。 	RF 形 - RF 形 	RF 形 - GF 形 	75~2600
			A 形			 離脱防止押輪	既設管のみ 75~300

NO	管 種		継 手	配 管 記 号		備 考	適用呼び径 (mm)
	名 称	略 称		基 準	接 合 状 況		
2	高級 鋳 鉄 管	C I P	ソケット継手			使用廃止	既設管のみ 75~1500
			メカニカル継手				
3	亜鉛メッキ鋼管	G P	溶接継手	(溶接継手) 		使用廃止	既設管のみ 10A~300A
			ネジ継手				
4	ビニルライニング鋼管	SGP-VB	ネジ継手	(ネジ継手) 		外 面：亜鉛メッキ 内 面：ビニルライニング	15A~150A
			フランジ継手				20A~350A
5	塗 覆 装 鋼 管	S P	溶接継手	(溶接継手) 		外 面：タールエポキシ樹脂 ポリウレタン、ポリエチレン、アス ファルト塗装 内 面：モルタルライニング、エポキ シ樹脂	80A~1500A
			フランジ継手				
6	ステンレス鋼鋼管	S U S	溶接継手	(フランジ継手) 			
			フランジ継手				
7	石綿セメント管	ACP	石綿セメント継手 鋳鉄継手			使用廃止	既設管のみ
8	プレストレスト コンクリート管	PCP				特定の管路のみ	
9	プレストレストコンクリート スチールシリンダー管	PCCP				特定の管路のみ	
10	遠心力鉄筋 コンクリート管	HP				推進管、サヤ管	
11	硬質塩化ビニル管	HIVP	TS継手				20~50

4 配管記号

NO	名称	ダクタイル 鋳鉄管												鋼管
		K形	T形	KF形	UF形	NS形	GX形	SII形	S形	US形	S50形	PII形	A形	
1	直管													
2	二受T字管		/						/	/		/		
3	挿受片落管		/						/	/		/		
4	曲管 90°		/						/	/		/		
5	曲管 45°		/						/	/		/		
6	曲管 22° 1/2		/						/	/		/		
7	曲管 11° 1/4		/						/	/		/		
8	曲管 5° 5/8		/						/	/	/	/	/	/
9	乙字管	/	/	/	/	/		/	/	/	/	/		/
10	フランジ 付T字管		/						/	/		/		
11	排水 T字管		/				/		/	/	/	/		
12	継輪		/	/	/							/		

NO	名称	ダクタイル 鋳鉄管												鋼管
		K形	T形	KF形	UF形	NS形	GX形	SII形	S形	US形	S50形	PII形	A形	
13	長継尺輪						両受短管 				両受短管 			
14	離脱防止継輪乙						G-Link 				抜け止め押輪 			
15	栓													
16	帽													
17	短管1号													
18	短管2号													
19	仕切弁副管A1号													
20	仕切弁副管A2号													
21	仕切弁副管B1号													
22	ふた													
23	らっぱ口													
24	フランジ短管													

5 漏水防止金具、伸縮継手、割T字管等配管記号

NO	名称	種類	記号	記入例	備考	NO	名称	種類	記号	記入例	備考	
1	石綿管用短管甲		ツメ形 	ACP DIP 	石綿管と接合 φ75～φ150	8	伸縮管	テレスコピック型		フランジ 	FCD	
2	石綿管用短管丙		ツメ形 	ACP DIP 	石綿管と接合 φ75～φ150			SS				
3	石綿管用挿口短管			ACP DIP 	石綿管と接合 φ200以上			ベローズ型			ゴムベローズは「ゴム」と表示	FCD
4	石綿管継手							ユニバーサル型			SS	
5	石綿管 鋳鉄管継手							ビクトリック型			SS	
6	管補修金具	鋳鉄管用				9	可動継手	クローザーA型				
		石綿管用						クローザーB型				
7	漏水防止金	ソケット				10	不断水管 割T字管	作業用バルブ付 (表函なし)			φ75～φ200 FCD・SS	
		仕切弁						作業用バルブ付 (表函あり)			φ75～φ200 FCD・SS	
		継輪									FCD・SS φ300～	
8	伸縮継手管	ドレッサー型										

6 弁類等付属設備の配管記号と管路記号

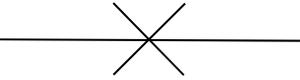
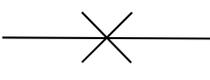
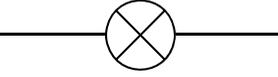
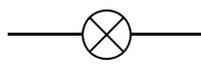
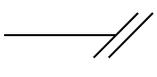
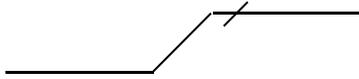
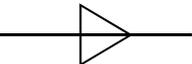
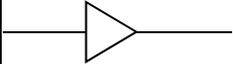
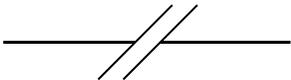
NO	名称	略称	配管記号(配管図用)			管路記号(平面図用)	
			配管記号	記入例	摘要	管路記号	摘要
1	仕切弁	SV	✕	K形離脱防止押輪	ハンドル式 電動式 電磁式		
				フランジ形			
2	ワトシール仕切弁	SSV	⊗	フランジ形			
				GX形			
				NS形			
				S50形			
3	バタフライ弁	BV	✱	フランジ形	横型仕切弁 バイパス弁		
4	不断水閉止弁	ISV(T)	⊗				
5	不断水式本バルブ (スルース弁)	ISV	✕				
6	不断水式本バルブ (バタフライ弁)	IBV	✱				
7	不断水式本バルブ (副弁内蔵式バタフライ弁)	IBBV	✱				
8	副弁内蔵式 バタフライ弁	BBV	✱	フランジ形			
9	NS形充水機能付き バタフライ弁	FBV	⊗				
10	GX形充水機能付き バタフライ弁	FBV	⊗				
11	多目的仕切弁			フランジ形	小型消火栓		

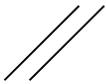
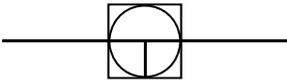
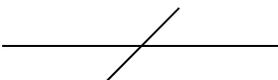
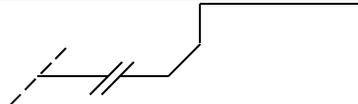
NO	名称	略称	配管記号(配管図用)			管路記号(平面図用)	
			配管記号	記入例	摘要	管路記号	摘要
12	緊急開放弁						マッピング表示なし
13	緊急閉止弁						マッピング表示なし
14	ストレーナ						マッピング表示なし
15	双口空気弁	AV					
16	単口空気弁						
17	急速空気弁 (小型空気弁含む)						
18	空気抜き (分水栓使用)	F	F				
19	双口消火栓	FH					
20	単口消火栓						
21	小型消火栓	FH(S)					補修弁内臓
22	空気弁付消火栓	AFH					
23	空気弁付小型消火栓	AFH(S)					
24	緊急給水栓	FH					
25	船舶給水栓						

NO	名称	略称	配管記号(配管図用)			管路記号(平面図用)	
			配管記号	記入例	摘要	管路記号	摘要
26	逆止弁	CV					
27	減圧弁						
28	水圧調整弁						
29	定流量弁						
30	水道計測設備						孫
31	補修弁						
32	ロータリー弁	RV					
33	排水設備						吹き上げ
34	片落管						
35	翼車形流量計	M				又は	工業用水
36	電磁流量計					又は	
37	超音波流量計					又は	
38	ベンチュリー型流量計					又は	
39	ポンプ及びモーター						逆止弁省略

NO	名 称	略 称	配 管 記 号 (配 管 図 用)			管 路 記 号 (平 面 図 用)	
			配管記号	記 入 例	摘 要	管路記号	摘 要
40	ボールタップ						
41	洗 浄 栓	FH(d)					φ 350 洗浄栓用人孔鉄蓋
42	うず巻き式洗浄栓	FH(e)					
43	急速空気弁 (玉押し対応型)	AV					
44	洗 浄 栓	FH(D)					φ 600 洗浄栓用人孔鉄蓋
45	空気弁付洗浄栓	AFH (D)					φ 600 洗浄栓用人孔鉄蓋

7 口径50mm以下配管記号と管路記号

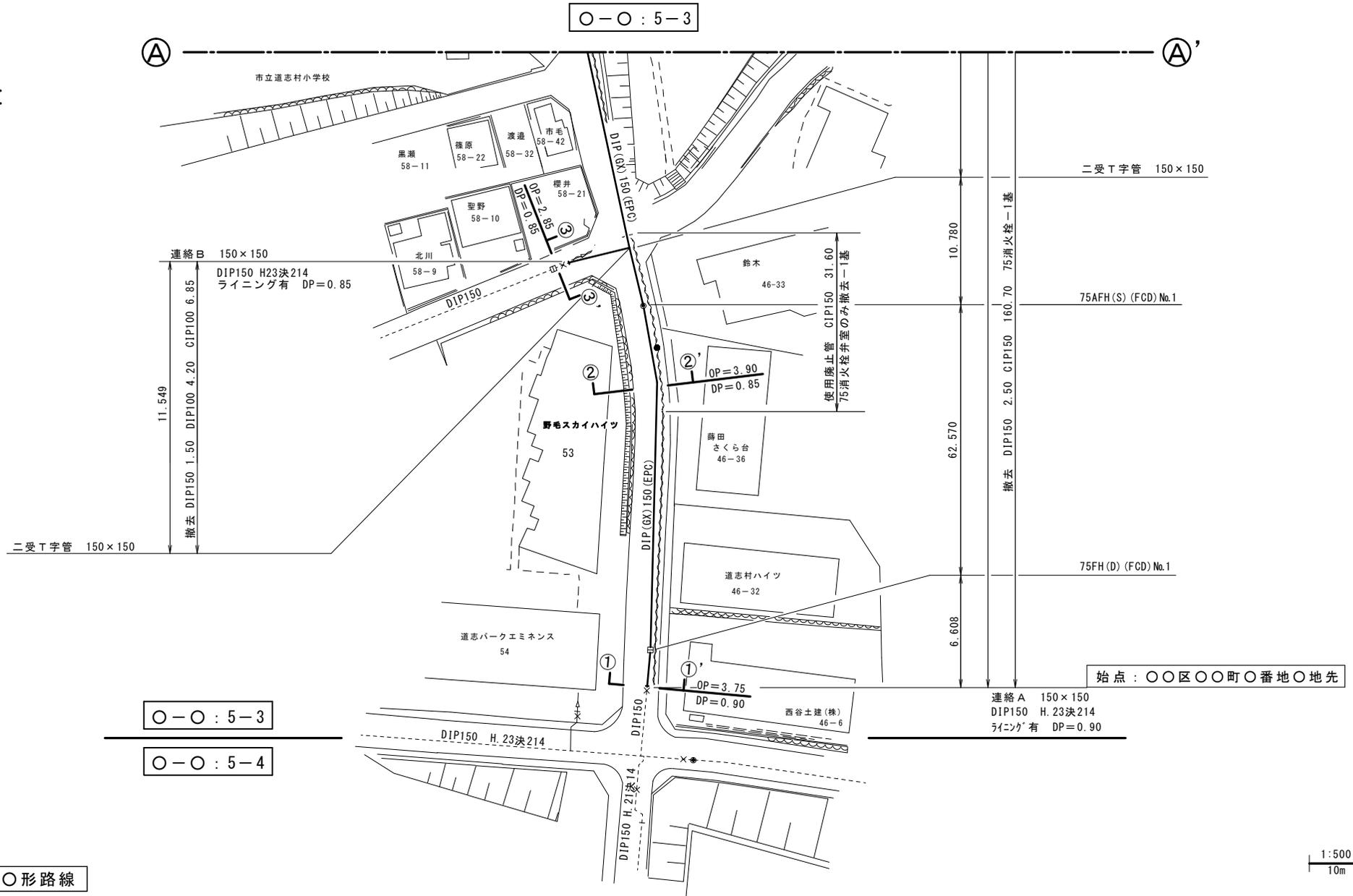
NO	配管記号					管路記号	
	名称	略称	配管記号	記入例	摘要	管路記号	摘要
1	止水栓						
2	共用止水栓						
3	プラグ						
4	自在継手						
5	エルボ						
6	違径エルボ						
7	チーズ						
8	違径チーズ						
9	違径ソケット						
10	ユニオン						

NO	配管記号					管路記号	
	名称	略称	配管記号	記入例	摘要	管路記号	摘要
11	M・ソケット2型						
12	三方バルブ						
13	ソケット類						
14	水道用バルブ付分水栓 (自在継手2型)						
15	水道用バルブ付分水栓 (取出しソケット)						
16	水道用バルブ付分水栓 (絶縁袋ナット式分・ 止水栓ソケット)						

第5 図面作成例

平面図 (1/5) 工事場所 (1)

S=1/500



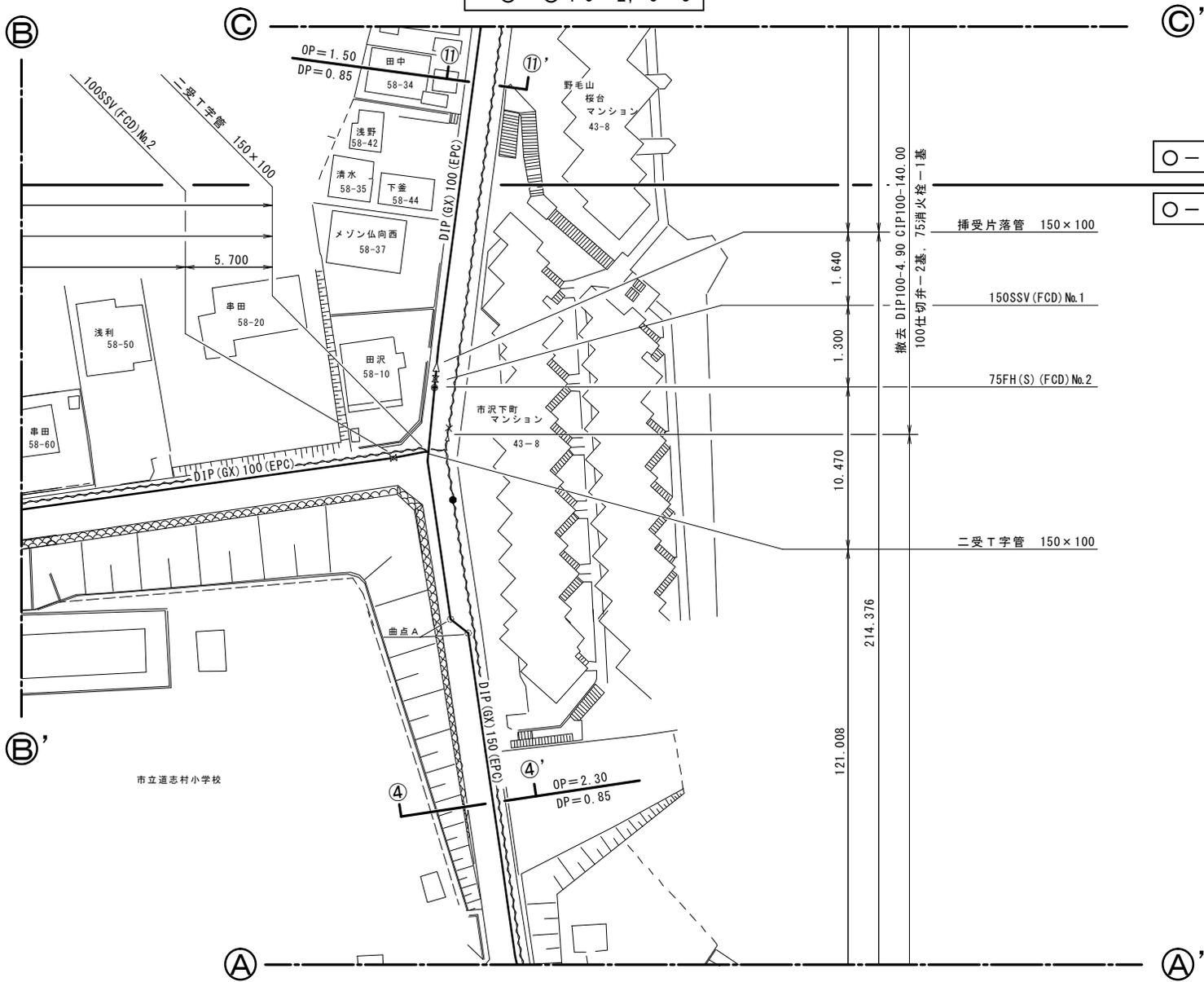
継手情報 ○○形路線

摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	○○係 係長 設計		○○係 主任監督員 担当監督員		工期 令和○年○月○日～令和○年○月○日	年度 ○	メッシュ番号 ○-○:4-3, 5-2, 5-3, 6-2	図名 平面図 (1/5)			
	○○ 横浜市水道局○○部○○○		○○ ○○						起工番号 ○○○	工事名 ○○ほか1か所○○○○○○○○○○工事	縮尺 S=1/500 工事場所 (1)
	請負人 ○○○○株式会社 現場代理人 ○○○○		工事場所 ○○区○○町○番地○地先から○○町○丁目○番地○地先まで								

平面図 (2/5) 工事場所 (1)

S=1/500

○-○ : 5-2, 5-3



○-○ : 5-2

○-○ : 5-3

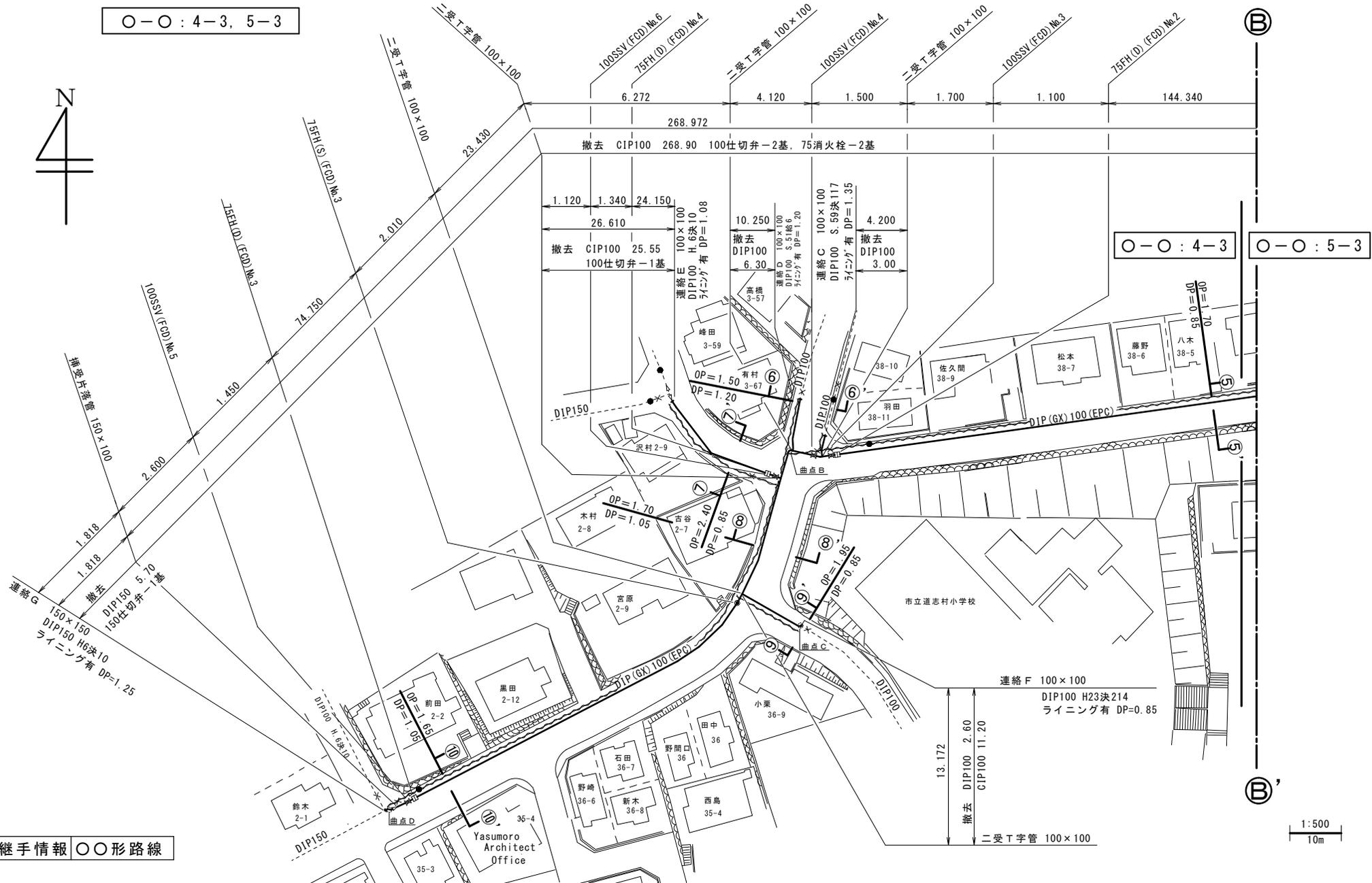
1:500
10m

継手情報 ○○形路線

摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	○○係 係長 設計		○○係 主任監督員 担当監督員		工期 令和○年○月○日～令和○年○月○日	年度 ○	起工 ○○○	現場代理人 ○○ ○○	メッシュ番号 ○-○:4-3,5-2,5-3,6-2	図名 平面図 (2/5)	
	○○ 横浜市水道局○○部○○○		請負人 ○○○○株式会社						工事名 ○○ほか1か所○○○○○○○○工事		縮尺 S=1/500 工事場所 (1)
									工事場所 ○○区○○町○番地○地先から○○町○丁目○番地○地先まで		

平面図 (3/5) 工事場所 (1) S=1/500

○-○ : 4-3, 5-3

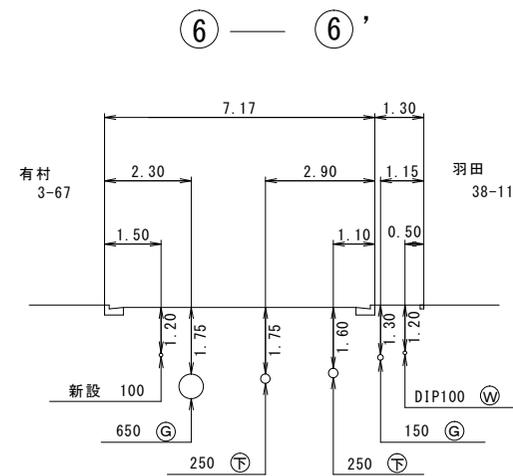
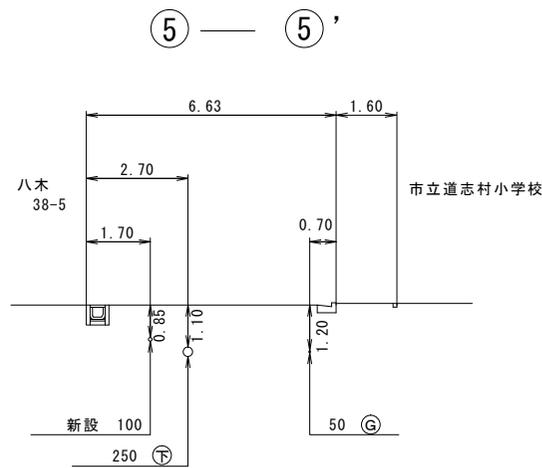
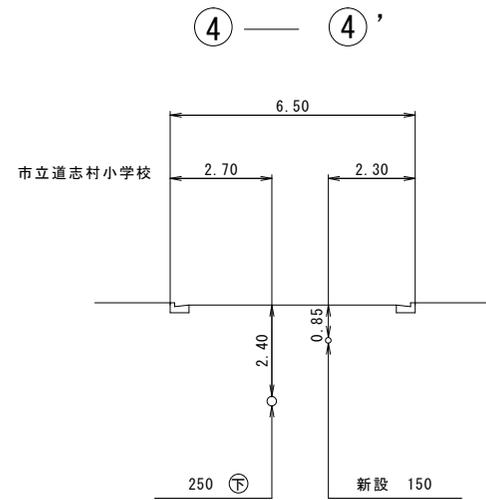
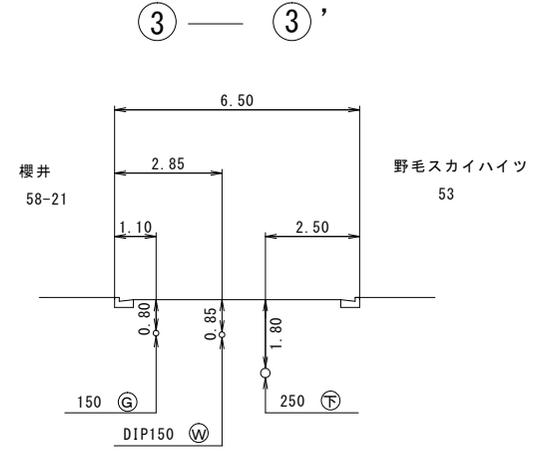
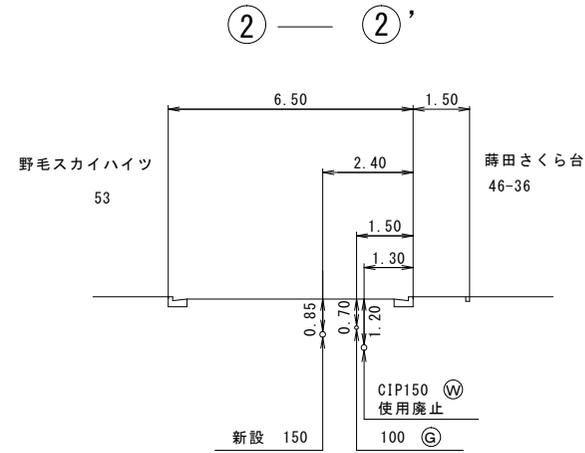
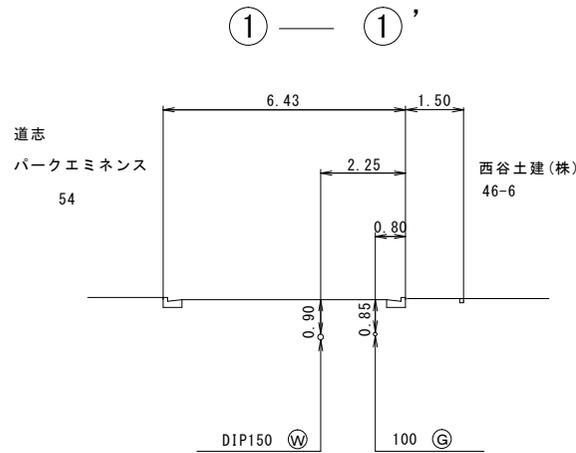


継手情報 ○○形路線

摘 要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	○ ○ 係 係 長 設 計		○ ○ 係 主任監督員 担当監督員		工 期 令和○年○月○日～令和○年○月○日	年 度 ○	メッシュ 番 号 ○-○ : 4-3, 5-2, 5-3, 6-2	図 名 平面図 (3/5)
	○ ○ 横 濱 市 水 道 局 ○ ○ 部 ○ ○ ○ ○		○ ○ 請 負 人 ○ ○ ○ ○ 株 式 有 限 公 司		起 工 日 月 年	○ ○ ○ ○ 番 号	工 事 名 ○ ○ ほか1か所 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 工 事	縮 尺 S=1/500 工 事 場 所 (1)
			現 場 代 理 人 ○ ○ ○ ○		工 事 場 所 ○ ○ 区 ○ ○ 町 ○ 番 地 先 から ○ ○ 町 ○ 丁 目 ○ 番 地 ○ 地 先 まで	図 番 4 / ○ ○		

布設位置断面図 (1/3) 工事場所(1)

S=1/100

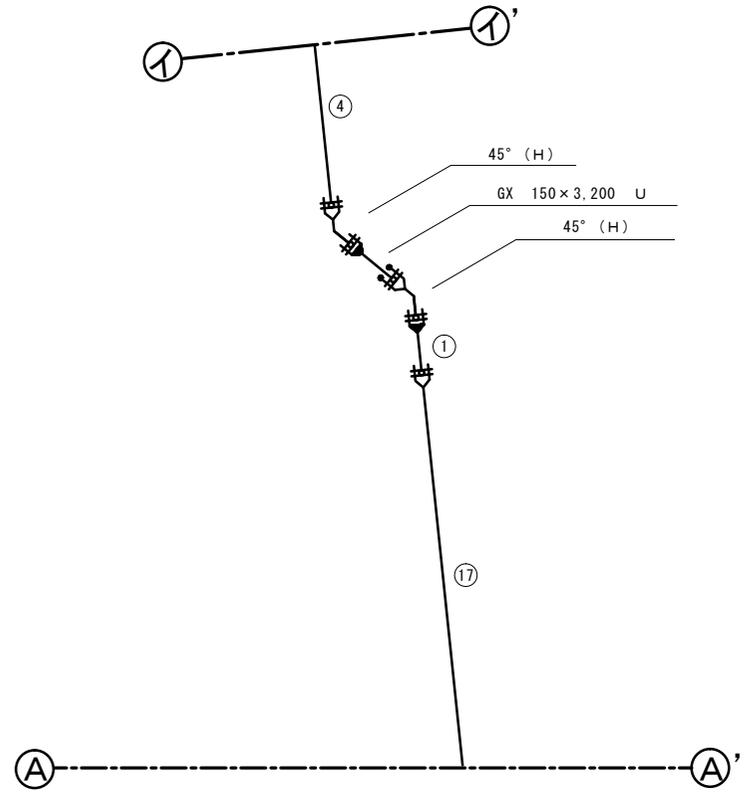
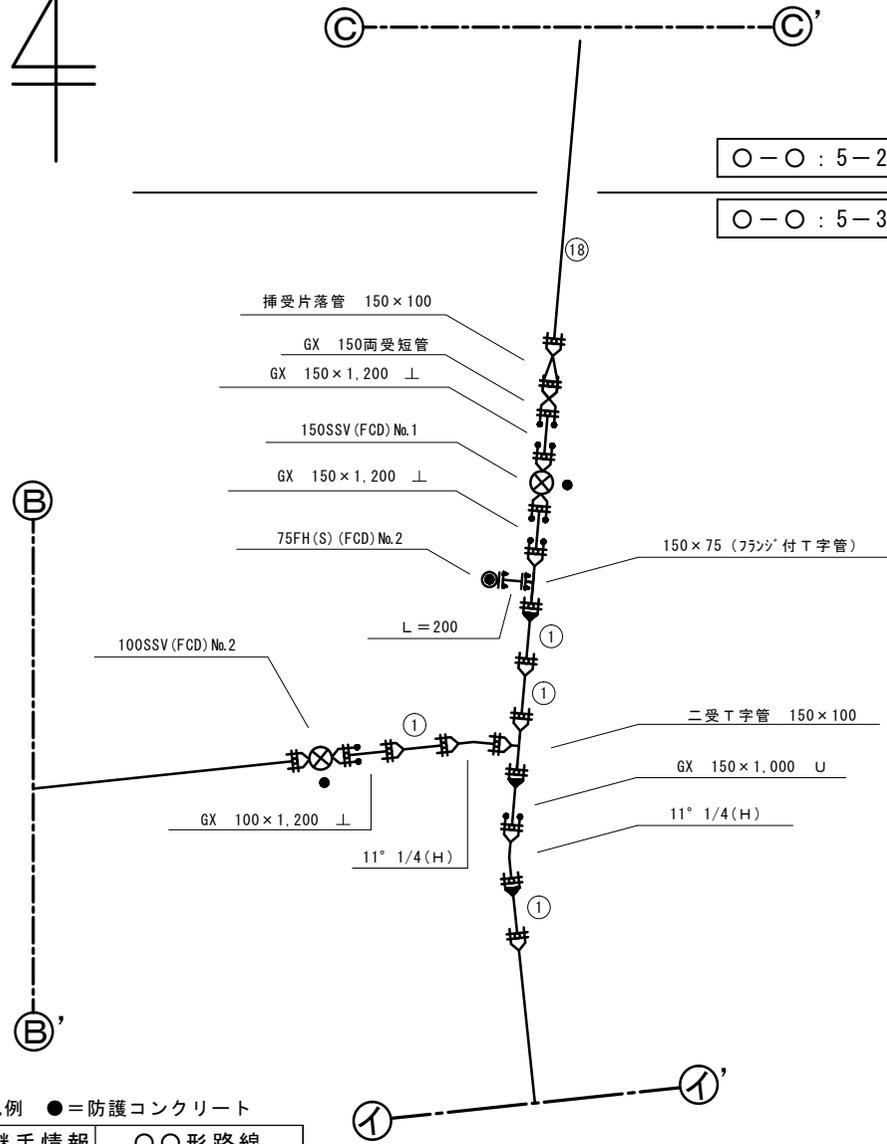


摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	〇〇係		〇〇係		工期 令和〇年〇月〇日～令和〇年〇月〇日	年度 〇	メッシュ番号 〇-〇:4-3,5-2,5-3,6-2	図名 布設位置断面図(1/3)
	係長	設計	主任監督員	担当監督員				
	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	請負人 〇〇〇〇株式会社 現場代理人 〇〇 〇〇	起工 〇 〇 〇	工事場所 〇〇区〇〇町〇番地〇地先から〇〇町〇丁目〇番地〇地先まで	図番 7 / 〇〇
	横浜市水道局〇〇部〇〇〇〇							

配管図 (2/5) 工事場所 (1)

S=NTS

○-○ : 5-2, 5-3



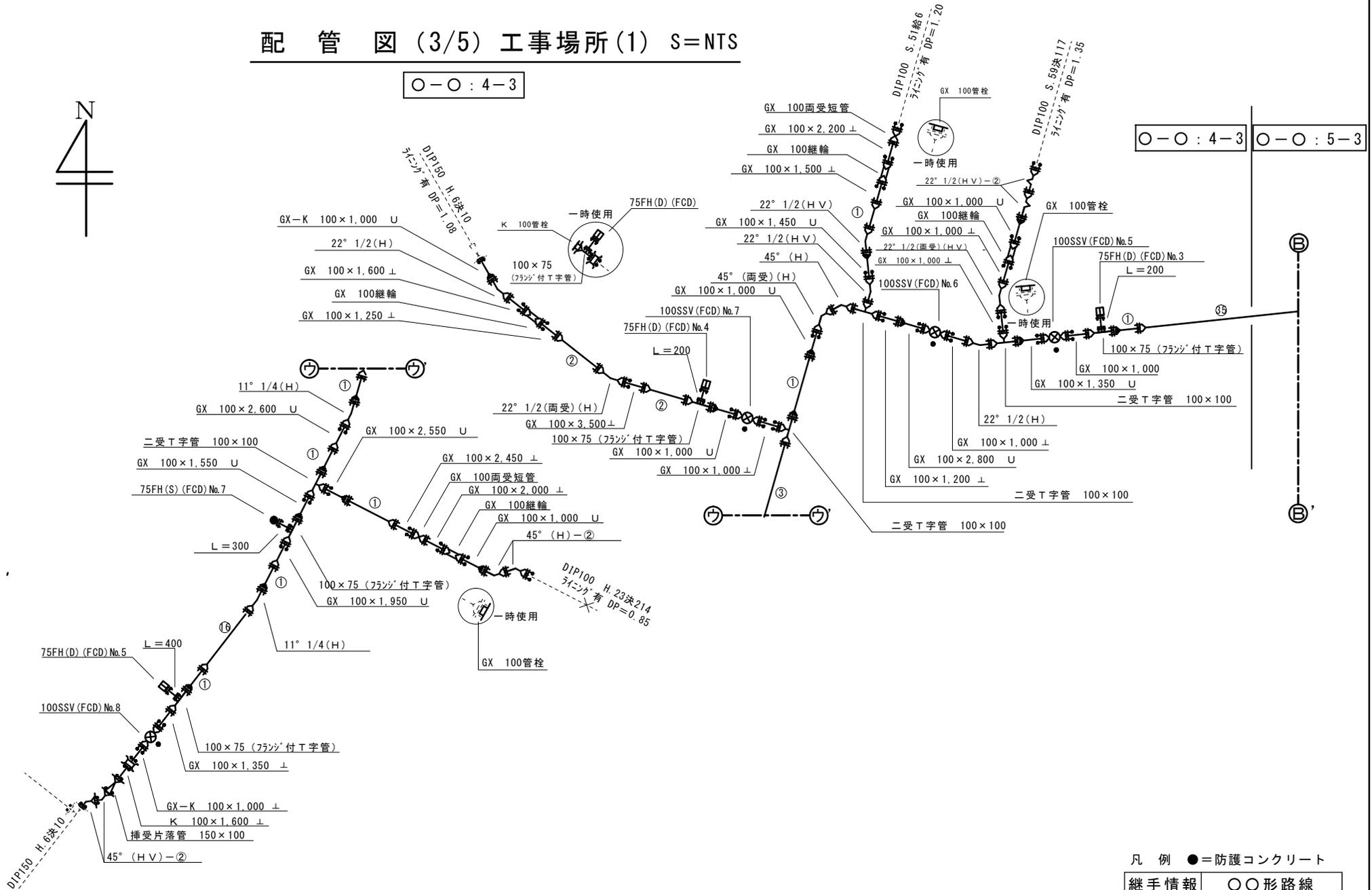
凡例 ● = 防護コンクリート

継手情報 ○-○ 形路線

摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	○-○ 係		○-○ 係		工期 令和○年○月○日～令和○年○月○日	年度 ○	メッシュ番号 ○-○ : 4-3, 5-2, 5-3, 6-2	図名 配管図 (2/5)			
	係長	設計	主任監督員	担当監督員					起工 番号 ○ ○	工事名 ○○ほか1か所○○○○○○○○工事	縮尺 S=NTS 工事場所 (1)
	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○							
横浜市水道局 ○○部 ○○○○				請負人 株式会社 ○○○○	起工 番号 ○ ○	工事場所 ○○区○○町○番地○地先から○○町○丁目○番地○地先まで	図番 11 / ○ ○				

配管図 (3/5) 工事場所 (1) S=NTS

○-○: 4-3



凡例 ●=防護コンクリート

継手情報 ○○形路線

摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	設計係		工事係		工期 令和○年○月○日～令和○年○月○日 年度 ○	メッシュ番号 ○-○: 4-3, 5-2, 5-3, 6-2	図名 配管図 (3/5)		
	係長	設計	主任監督員	担当監督員				工事名 ○○ほか1か所○○○○○○○○○工事	縮尺 S=NTS 工事場所 (1)
	○○	○○	○○	○○					
横浜市水道局○○部○○○○				請負人 株式会社 ○○○○ 現場代理人 ○○ ○○	起工 ○ ○ ○	番号			

総合内訳表

口径 mm	DIP (GX)	DIP (K)	総延長 m	7/10寸仕切弁(基)		仕切弁(基)		消火栓(基)		空気弁付消火栓(基)		洗浄栓(基)		撤去 m	一時使用 m	使用廃止 m
				新設	撤去	新設	撤去	新設	撤去	新設	撤去	新設	撤去			
100	936,868	5,362	942,230	13		12		4	7	1		6		881,950	4,127	82,500
150	566,000	7,410	573,410	8		5		5	4	1		3		498,860	2,218	42,400

内訳表 工事場所(1)

口径 mm	DIP (GX)	DIP (K)	総延長 m	7/10寸仕切弁(基)		仕切弁(基)		消火栓(基)		空気弁付消火栓(基)		洗浄栓(基)		撤去 m	一時使用 m	使用廃止 m
				新設	撤去	新設	撤去	新設	撤去	新設	撤去	新設	撤去			
100	464,604	1,600	466,204	8		7		2	3			3		489,350	1,320	
150	553,774	3,392	557,166	7		5		5	4	1		2		484,760	2,218	42,400

新設管等材料表 (1/3) 工事場所(1)

新設φ100 DIP(GX) (EPC)

品名	形状寸法	数量	単位	単長	延長	摘要
直管	φ100×4,000	94	本	4,000	376,000	1種(接)
U	φ100×1,350	1	本		1,350	650 _上 残
└	φ100×1,000	1	本		1,000	
└	φ100×1,000	1	本		1,000	
U	φ100×1,000	1	本		1,000	800 _上 残
└	φ100×1,200	1	本		1,200	
└	φ100×1,000	1	本		1,000	
U	φ100×2,800	1	本		2,800	①
└	φ100×1,200	1	本		1,200	
U	φ100×1,450	1	本		1,450	450 _上 残
└	φ100×1,100	1	本		1,100	
└	φ100×1,000	1	本		1,000	
U	φ100×1,000	1	本		1,000	700 _上 残
└	φ100×1,300	1	本		1,300	
└	φ100×1,000	1	本		1,000	
U	φ100×1,000	1	本		1,000	1,800 _上 残
└	φ100×1,200	1	本		1,200	
U	GX-K φ100×1,000	1	本		1,000	500 _上 残
└	GX-K φ100×1,000	1	本		1,000	
└	φ100×1,500	1	本		1,500	
U	φ100×2,600	1	本		2,600	400 _上 残
└	φ100×1,000	1	本		1,000	
U	φ100×1,000	1	本		1,000	800 _上 残
└	φ100×2,200	1	本		2,200	
U	φ100×2,550	1	本		2,550	200 _上 残
└	φ100×1,250	1	本		1,250	
U	φ100×1,550	1	本		1,550	850 _上 残
└	φ100×1,600	1	本		1,600	
U	φ100×1,950	1	本		1,950	50 _上 残
└	φ100×2,000	1	本		2,000	
U	φ100×1,350	1	本		1,350	200 _上 残
└	φ100×2,450	1	本		2,450	
U	φ100×1,900	1	本		1,900	350 _上 残
└	φ100×1,750	1	本		1,750	
U	φ100×1,000	1	本		1,000	①
└	φ100×3,000	1	本		3,000	

新設φ100 DIP(GX) (EPC)

品名	形状寸法	数量	単位	単長	延長	摘要
└	φ100×3,500	1	本		3,500	500 _上 残
└	φ100×3,400	1	本		3,400	600 _上 残
└	φ100×2,900	1	本		2,900	1,100 _上 残
└	φ100×2,800	1	本		2,800	1,200 _上 残
└	φ100×2,500	1	本		2,500	1,500 _上 残
└	φ100×2,200	1	本		2,200	1,800 _上 残
└	φ100×1,800	1	本		1,800	2,200 _上 残
└	φ100×1,350	1	本		1,350	2,650 _上 残
曲管	φ100×45°	8	個	416	3,328	
曲管 (両受)	φ100×45°	6	個	156	936	
曲管	φ100×22° 1/2	8	個	380	3,040	
曲管 (両受)	φ100×22° 1/2	2	個	120	240	
曲管	φ100×11° 1/4	5	個	360	1,800	
二受T字管	φ150×φ100	4	個	140	560	支管部
二受T字管	φ100×φ100	4	個	590	2,360	
フランチ付T字管	φ100×75	5	個	440	2,200	(7.5K)形式2
継輪	φ100	7	個	200	1,400	
両受短管	φ100	2	個	20	40	
G-LINK	φ100	52	個			(ゴム輪、T頭B・N含む)
接合部品(異形等用)	φ100	36	組			(ゴム輪、押輪、T頭B・N含む)
ライナ	φ100	23	個			
G X ・ 小計					464,604	

摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	○ ○ 係 係長 設計		○ ○ 係 主任監督員 担当監督員		工 期 令和○年○月○日～令和○年○月○日	年 度 ○	メッシュ号 ○-○: 4-3, 5-2, 5-3, 6-2	図 名 縮 尺 総合内訳表 内訳表 新設管等材料表 (1/3) 工事場所(1)				
	○ ○ 横浜水道局 ○○部		○ ○ ○ ○ ○ ○						請負人 株式会社 ○ ○ ○ ○ 現場代理人 ○ ○ ○ ○	起 工 番 号 ○ ○ ○ ○	工事場所 ○○区○○町○番地○地先から○○町○丁目○番地○地先まで	図 番 17 / ○ ○

新設管等材料表 (2/3) 工事場所(1)

新設φ100

品名	形状寸法	数量	単位	単長	延長	摘要
ソフトシール仕切弁	φ100	8	基			(10K) FCD (接)
鉄蓋	φ230×φ250×150	8	組			小型仕切弁用
レジンコンクリート弁室	円形型下部壁φ250×350×150CA	6	個			土被り0.80~1.05m未満
レジンコンクリート弁室	円形型上部壁φ250	2	個			土被り1.05~1.35m未満
レジンコンクリート弁室	円形型下部壁φ250	2	個			
レジンコンクリート弁室	円形1号底版(250)	8	個			
継足しキー	L=450	1	個			
小型消火栓(FCD)	φ75	2	基			(7.5K)形式1(接)補修弁内蔵
洗浄栓(FCD)	φ75	3	基			(7.5K)形式1(接)補修弁内蔵
人孔鉄蓋	φ600	2	組			FCD消火栓用
人孔鉄蓋	φ600	3	組			FCD洗浄栓用
フランジ短管	φ75 L=200	3	個			(7.5K)形式2
フランジ短管	φ75 L=300	1	個			(7.5K)形式2
フランジ短管	φ75 L=400	1	個			(7.5K)形式2
レジンコンクリート弁室	円形4号上部壁φ600×200(200A)	5	個			
レジンコンクリート弁室	円形4号下部壁φ600×200(200C)	5	個			
レジンコンクリート弁室	円形4号底版φ600×40(40P)	5	個			
接合部品(フランジ形)	φ75	5	組			(7.5K)
ポリエチレンスリーブ	φ100×5m	699	m			
明示シート	シングル(50m巻)	466	m			
明示テープ	20m巻ポリエチレン樹脂	10	個			年度あり

一時使用φ100 DIP(GX)

品名	形状寸法	数量	単位	単長	延長	摘要
栓	φ100	3	個			
接合部品(異形等用)	φ100	3	組			(ゴム輪、押輪、T頭B・N含む)
ライナ	φ100	1	個			

一時使用φ100 DIP(K)

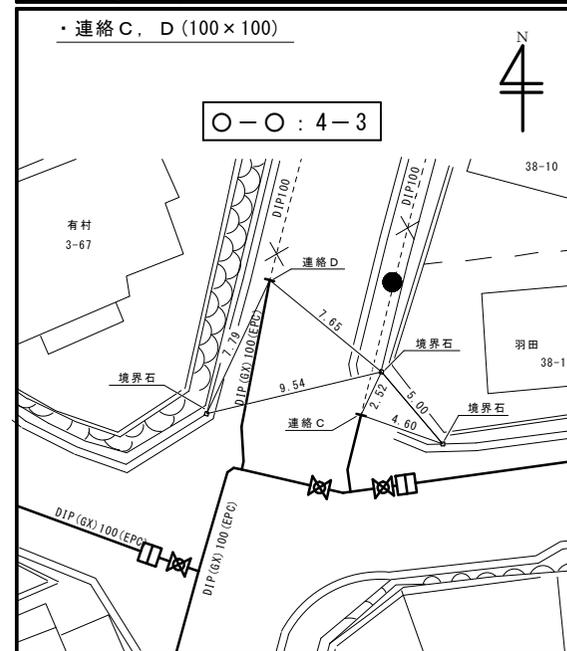
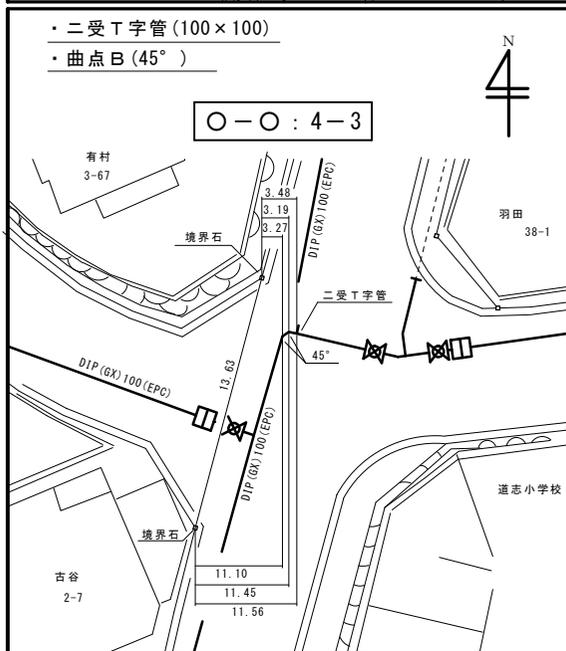
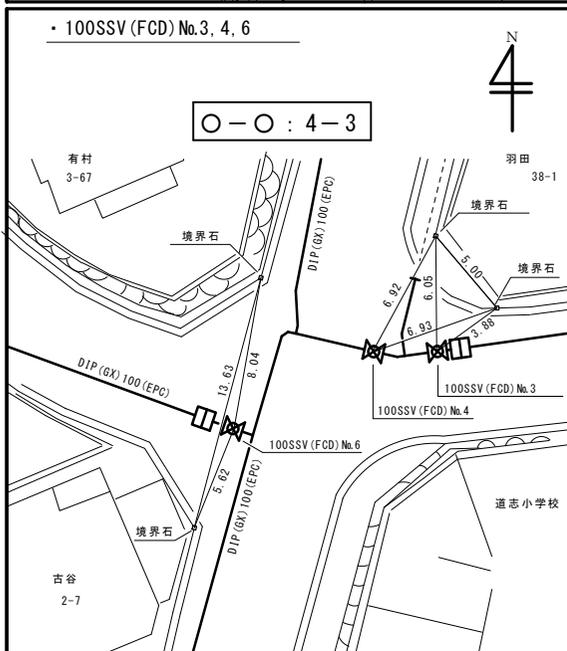
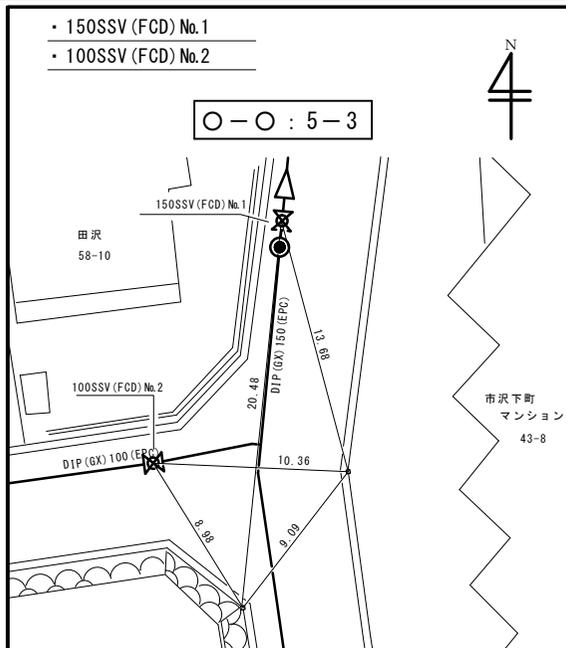
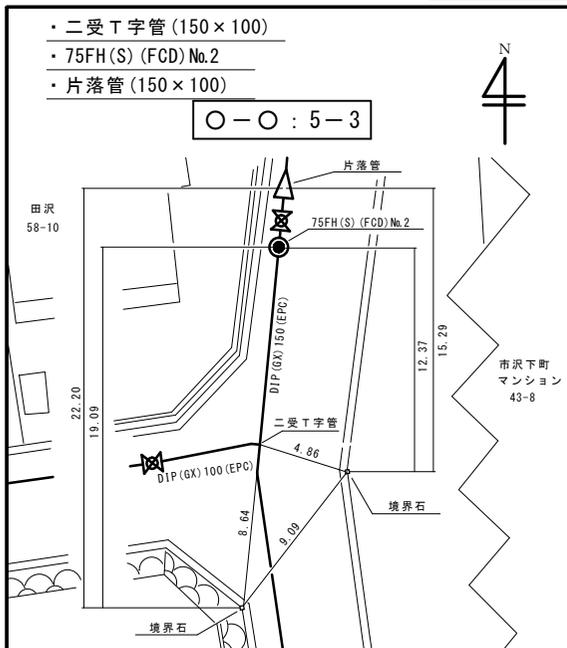
品名	形状寸法	数量	単位	単長	延長	摘要
フランジ付T字管	φ100×75	1	個	660	1,320	(7.5K)形式2
継輪	φ100	1	個			(接)
離脱防止押輪	φ100	1	個			(接)
栓	φ100	1	個			
ゴム輪(K型)	φ100	1	個			
T頭ボルト・ナット	M20×100	4	本			
洗浄栓(FCD)	φ75	2	基			(7.5K)形式1(接)補修弁内蔵
人孔鉄蓋	φ600	2	組			FCD洗浄栓用
フランジ短管	φ75 L=200	2	個			(7.5K)形式2
レジンコンクリート弁室	円形4号上部壁φ600×200(200A)	2	個			
レジンコンクリート弁室	円形4号下部壁φ600×200(200C)	2	個			
レジンコンクリート弁室	円形4号底版φ600×40(40P)	2	個			
接合部品(フランジ形)	φ75	2	組			(7.5K)
K・小計					1,320	

新設φ150 DIP(GX)(EPC)

品名	形状寸法	数量	単位	単長	延長	摘要
直管	φ150×5.000	92	本	5,000	460,000	1種(接)
U	φ150×2.700	1	本		2,700	300┘ 残
┘	φ150×2.000	1	本		2,000	
U	φ150×2.500	1	本		2,500	①
┘	φ150×2.500	1	本		2,500	
U	φ150×1.000	1	本		1,000	1,150┘ 残
┘	φ150×1.200	1	本		1,200	
┘	φ150×1.650	1	本		1,650	
U	φ150×2.000	1	本		2,000	①
┘	φ150×3.000	1	本		3,000	
U	φ150×1.000	1	本		1,000	1,500┘ 残
┘	φ150×1.200	1	本		1,200	
┘	φ150×1.300	1	本		1,300	
U	φ150×1.100	1	本		1,100	1,150┘ 残
┘	φ150×1.000	1	本		1,000	
┘	φ150×1.750	1	本		1,750	
U	φ150×2.900	1	本		2,900	①
┘	φ150×1.100	1	本		1,100	
┘	φ150×1.000	1	本		1,000	
U	φ150×1.500	1	本		1,500	1,000┘ 残
┘	φ150×1.300	1	本		1,300	
┘	φ150×1.200	1	本		1,200	
U	φ150×1.000	1	本		1,000	400┘ 残
┘	φ150×2.600	1	本		2,600	
┘	φ150×1.000	1	本		1,000	
U	φ150×1.350	1	本		1,350	50┘ 残
┘	φ150×1.600	1	本		1,600	
┘	φ150×2.000	1	本		2,000	
U	φ150×1.000	1	本		1,000	1,550┘ 残
┘	GX-K φ150×1.250	1	本		1,250	
┘	φ150×1.200	1	本		1,200	
U	φ150×3.200	1	本		3,200	600┘ 残
┘	φ150×1.200	1	本		1,200	
U	φ150×3.950	1	本		3,950	50┘ 残
┘	φ150×1.000	1	本		1,000	
┘	φ150×3.550	1	本		3,550	1,450┘ 残
┘	φ150×1.700	1	本		1,700	1,050┘ 残
┘	φ150×2.250	1	本		2,250	
┘	φ150×1.250	1	本		1,250	2,750┘ 残
┘	φ150×1.000	1	本		1,000	
┘	φ150×2.350	1	本		2,350	1,550┘ 残
┘	φ150×1.100	1	本		1,100	

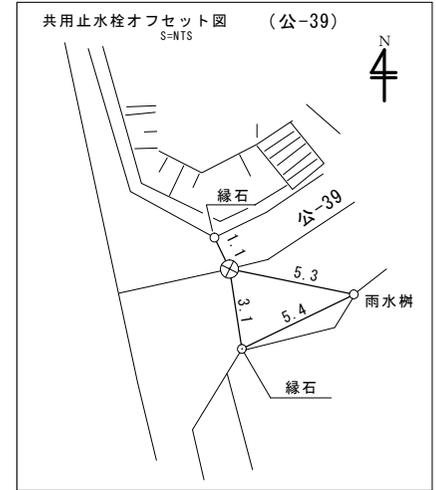
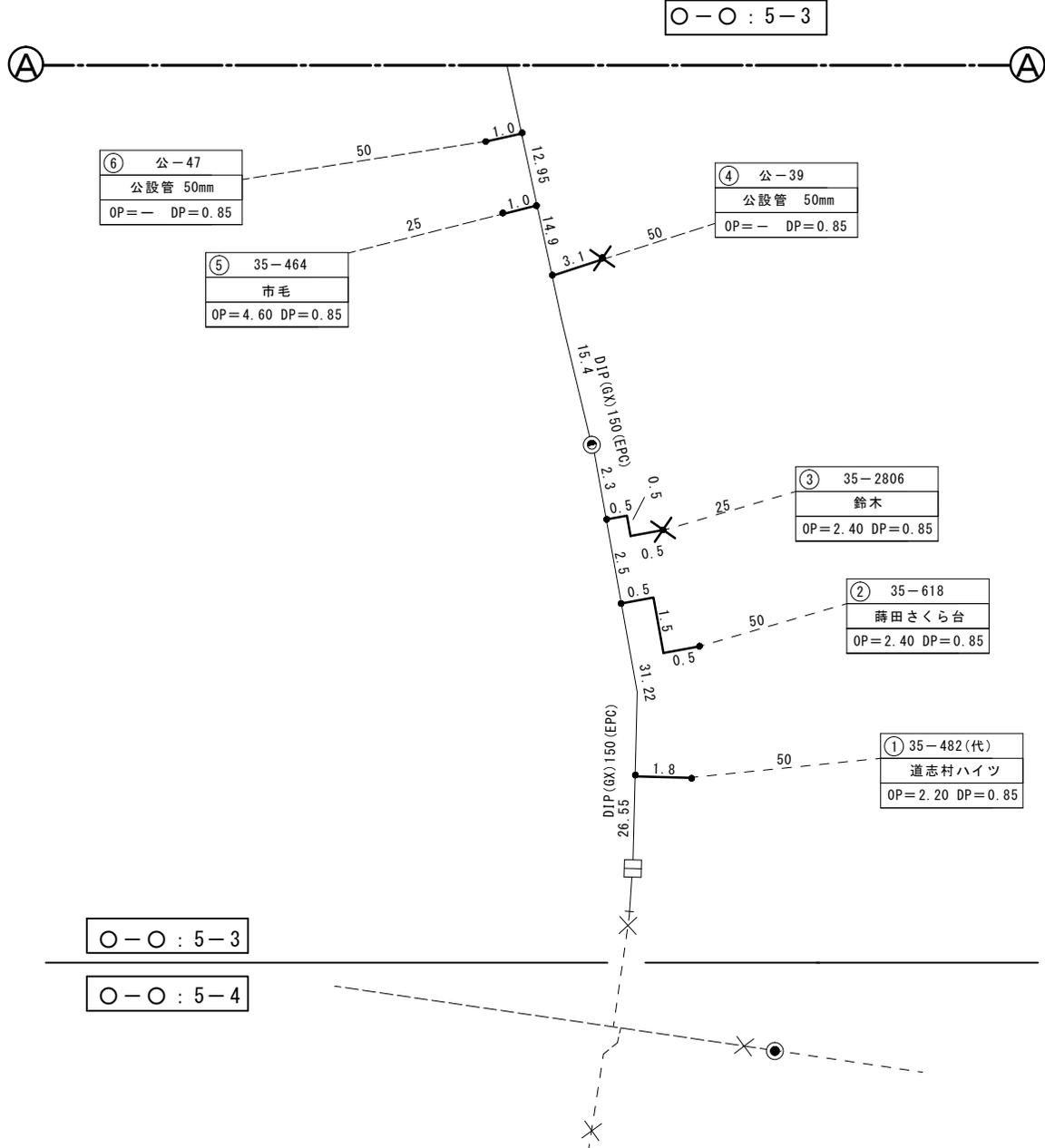
摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	〇〇係		〇〇係		工期 令和〇年〇月〇日~令和〇年〇月〇日	年度 〇	メッシュ番号 〇-〇:4-3,5-2,5-3,6-2	図名 新設管等材料表(2/3)		
	係長	設計	主任監督員	担当監督員					工事名 〇〇ほか1か所〇〇〇〇〇〇〇〇工事	縮尺 工事場所(1)
	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇						
横浜市水道局 〇〇部 〇〇〇〇				請負人 株式会社 〇〇〇〇 現場代理人 〇〇 〇〇	起工番号 〇 〇〇					

各種オフセット図 (2/7) 工事場所(1) S=1/200



摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	○ ○ 係		○ ○ 係		工 期 令和○年○月○日～令和○年○月○日	年 度 ○	マッピ 番 号 ○-○ : 4-3, 5-2, 5-3, 6-2	図 名 各種オフセット図 (2/7)		
	係 長	設 計	主任監督員	担当監督員					工 事 名 ○○ほか1か所○○○○○○工事	縮 尺 S=1/200 工事場所(1)
	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○						
横 濱 市 水 道 局 ○ ○ 部 ○ ○ ○ ○				請 負 人 ○ ○ ○ ○ 株 式 有 限 公 司	起 工 番 号 ○ ○ ○	現 場 代 理 人 ○ ○ ○				

口径50mm以下取付替オフセット図 (1/5) 工事場所(1) S=NTS

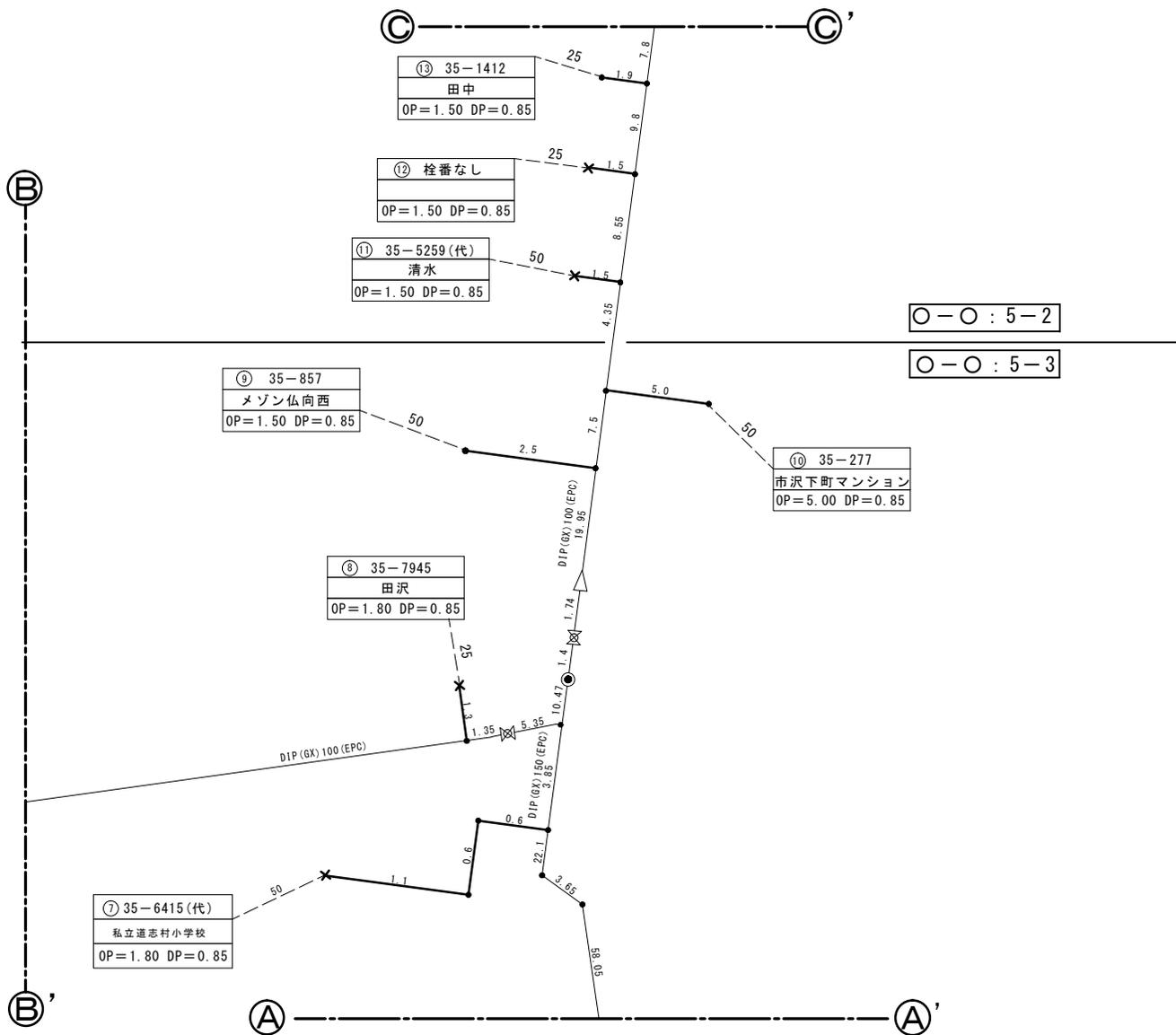
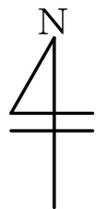


丁字管分岐部は除く

摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	〇〇係		〇〇係		工期 令和〇年〇月〇日～令和〇年〇月〇日	年度 〇	メッシュ番号 〇-〇: 4-3, 5-2, 5-3, 6-2	図名 口径50mm以下取付替オフセット図(1/5)
	係長	設計	主任監督員	担当監督員				
	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	請負人 株式会社 〇〇〇〇 現場代理人 〇〇 〇〇	起工 〇 〇 〇	工事名 〇〇他1か所〇〇〇〇〇〇〇〇工事	図番 36 / 〇〇
	横浜市水道局〇〇部〇〇〇〇							

口径50mm以下取付替ワレット図 (2/5) 工事場所(1) S=NTS

○-○ : 5-2, 5-3



丁字管分岐部は除く

摘要 弁室等の構造図は横浜市水道局設計標準図による。	○ ○ 係 係長 設計		○ ○ 係 主任監督員 担当監督員		工期 令和○年○月○日～令和○年○月○日	年度 ○	メッシュ 番号 ○-○ : 4-3, 5-2, 5-3, 6-2	図名 口径50mm以下取付替ワレット図 (2/5) S=NTS 工事場所(1)			
	○ ○ 横浜水道局○○部○○○		○ ○ 現場代理人 ○ ○ ○ ○						起工 番号 ○ ○ ○	工事名 ○○他1か所○○○○○○○○工事	図番 37 / ○ ○
	工事場所 ○○区○○町○番地○地先から○○町○丁目○番地○地先まで										

工事完成図作成の標準付属

配水管及び仕切弁等オフセット測量基準

横 浜 市 水 道 局

(工事完成図作成の標準付属 1)

配水管及び仕切弁等オフセット測量基準

(目的)

この基準は、工事完成図として作成する配水管の布設位置及び、仕切弁等附属施設の設置位置を明確にするためのオフセット測量の方法及び図面作製の方法を定めるものである。

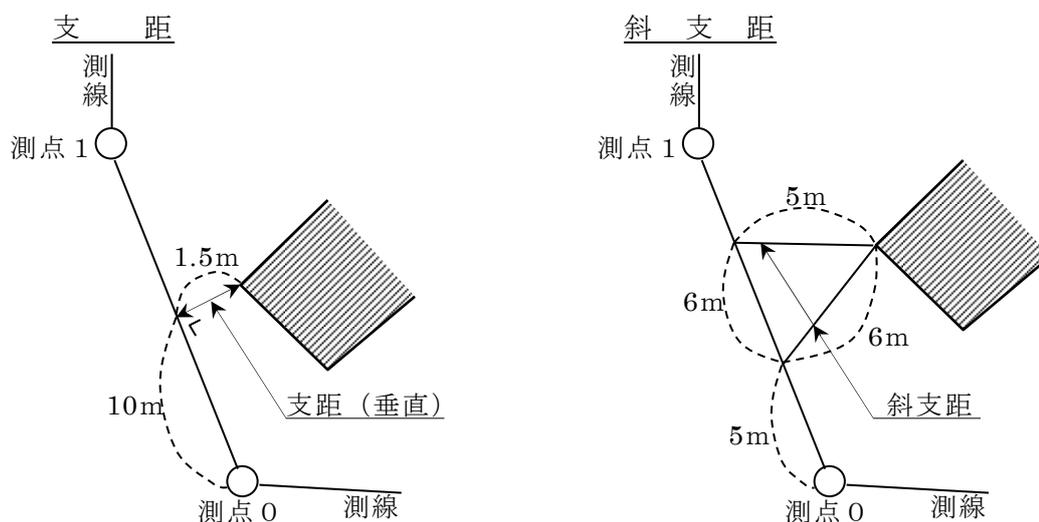
(測量方法)

1 支距 (オフセット)

測量学では、距離と角を測るときにの基準となる点を「測点」といい、この測点を結んだ線を「測線」、測線の連続を「トラバース」という。

オフセット測量は、このトラバースを基にして地物の状態を測量する方法で、「オフセット」とは、この測線の左右にある地物の点から測線に至る垂直距離をいうのである。

なお、支距には、この他に「斜支距」といって、測線上の2点より地物の1点を測定する方法があり、垂直支距に比べて精度が高い。



以上のようにトラバースに基づくオフセッティングは、基準線 (測線) があるので問題ないが、われわれの当面するオフセット測量には、この基準線がないので、これに代るものを現地より選定し基点・基線としなければならない。

2 基点・基線の選定

測点・測線を代用する基準点、基準線の選定に当たっては、この測量の目的が工事完成後の維持管理に必要なものであるために、永久性の高い地物を対象としなければならないことはいうまでもない。

次表に永久度を考慮した選定の基本を表-1に示す。

表－1 基点・基線の選定表

永久性 順位	地物の名称	永 久 度		
		1	2	3
1	境界石線 境界石	公設境界石 縁石	私設境界石 私設縁石	雨水柵 舗装止 コンクリート 構造体縁石
2	橋梁 護岸	新設のコンクリート 橋又は鋼橋，橋台， 護岸壁	古いが構造強固な橋 完全施工の護岸	木橋 一般の石積
3	建築物	新設のビル及びコン クリート擁壁 ブロック擁壁	一般のビル 強固な擁壁	一般家屋 柱
4	マンホール	新設された大形マン ホール（N T T・東 電・ガス・下水）	N T T ，東電マンホ ール，整備後の下水 マンホール	その他のマンホール
5	電柱 信号機	新設コンクリート柱 新設信号機	古いコンクリート柱 街路灯（公設） 信号機	私設街路灯

注1) 境界石、境界線等は、特別の事情のない限り変化することは少いのでその安定性は最も高い。道路改良後に築造された橋梁、護岸等の構造物はその安定性が高いが、木橋、木柵土止め等は対象として避けなければならない。

注2) 市街地内の老朽ビルは立て替えの可能性があり、また擁壁類についても、その外観上判断される老化現象を生じているもの、又は、コンクリートブロック、間知石積以外のものは、対象から避けることがよい。

注3) マンホール類については、その大きさにより安定度も異なるが、表函の大きさと道路舗装の整備状況により判断する。特に公共下水道のマンホールは、幹線のもの、汚水、雨水の区分が示されたものは安定度が高い。

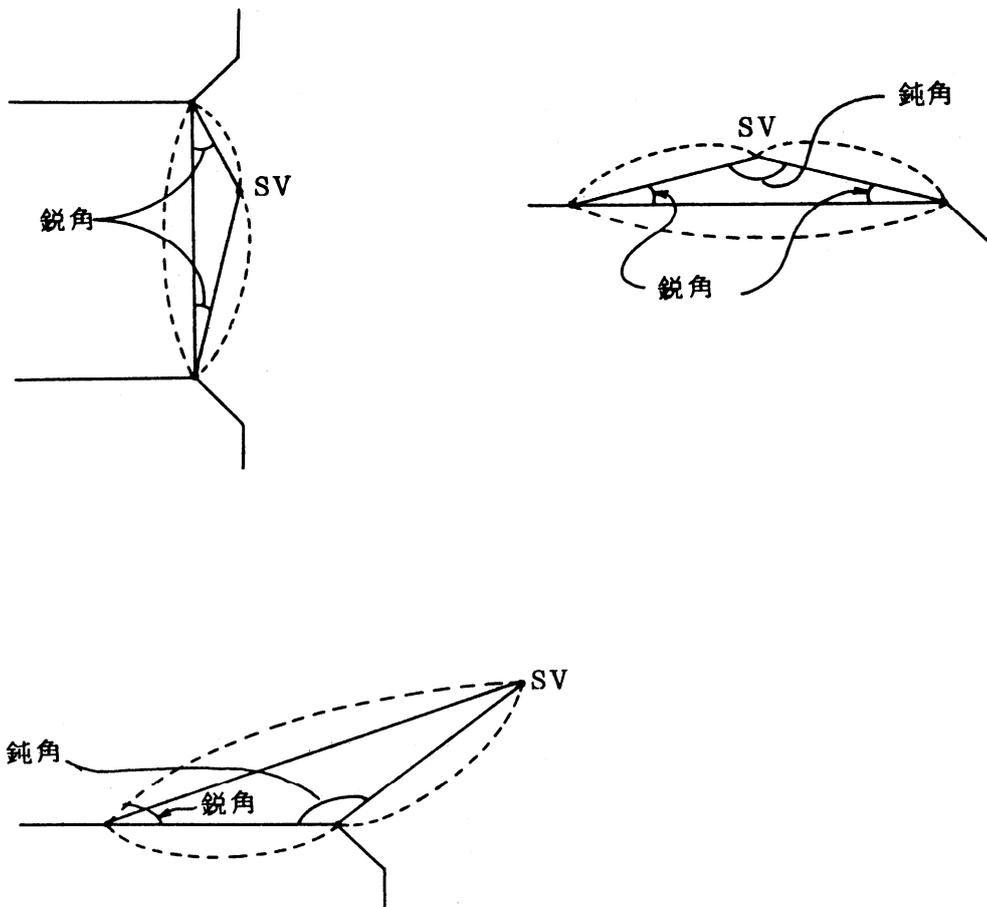
注4) マンホール、電柱、信号機等を対象とする場合は、角か、中心であることを明確に記入しなければならない。

一般には、円形のもの、中心を角形のものはその角を選定し測定することがよいが、マンホール、ボックス類については、その中心（角形、丸形とも）を基点とする。

3 測定方法

支距は、正確をきたすために2点より距離を測る「斜支距」とする。このため必ず基点間距離（基線）を測定することを忘れてはならない。

支距はなるべく短いのが良く、巻尺（20m以下）の長さ以上でないことを原則とする。また、鋭角（ 30° 以下の角）、鈍角（ 120° 以上の角）をさけることが精度を高め、必要により測定対象物間の距離を測定しておくことは、安全度を高めることとなる。



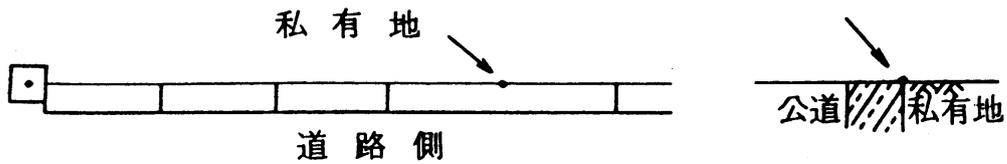
(測定例1)

境界石、境界線を基点、基線とした場合。

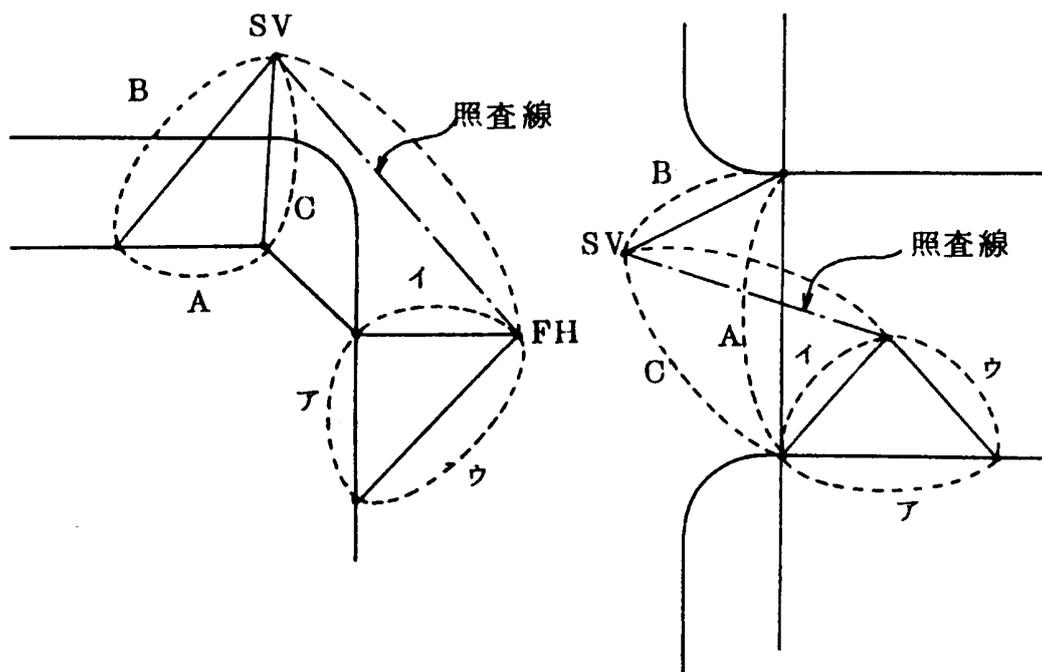
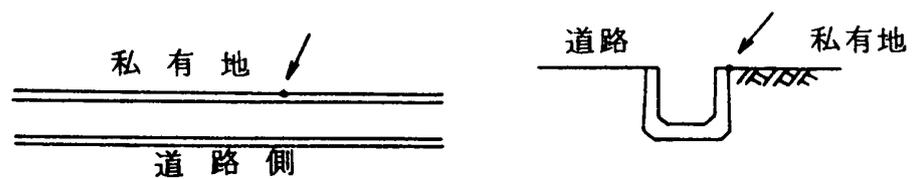
注1) 境界石等の基点の場合は、中心点とする。



注2) 縁石を基線とし、基点を設ける場合は、私有地側とする。



注3) U字溝に基点を設ける場合も前記同様とする。



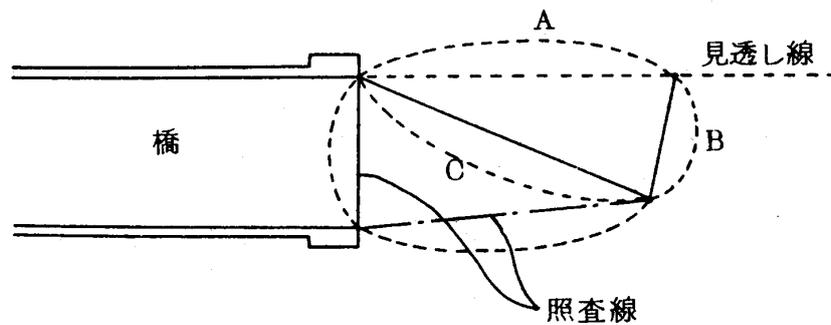
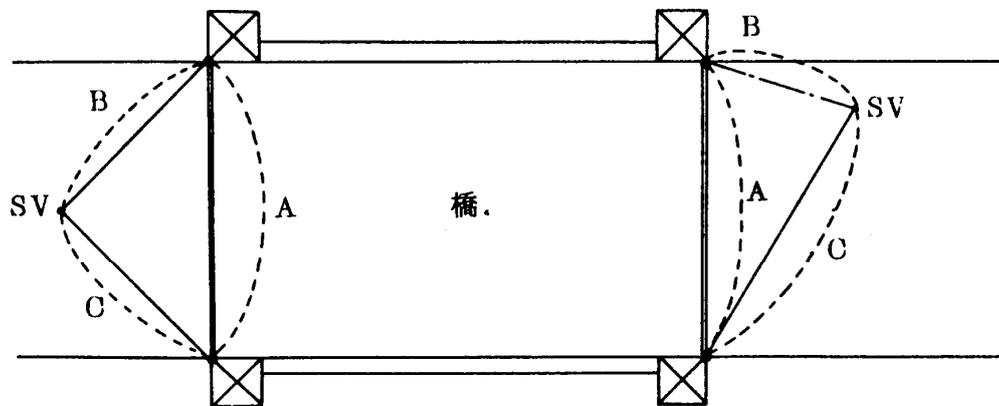
(測定例 2)

橋、護岸等を基点、基線とした場合。

注 1) 親柱の角を基点とする場合は、最下端の角とする。

注 2) 橋前後の縁石、舗装止め等が不明確な場合は、橋の中員線を延長して基線とし、基点を設ける。

注 3) 橋の起終点を基線とする場合は、橋側の線とすること。

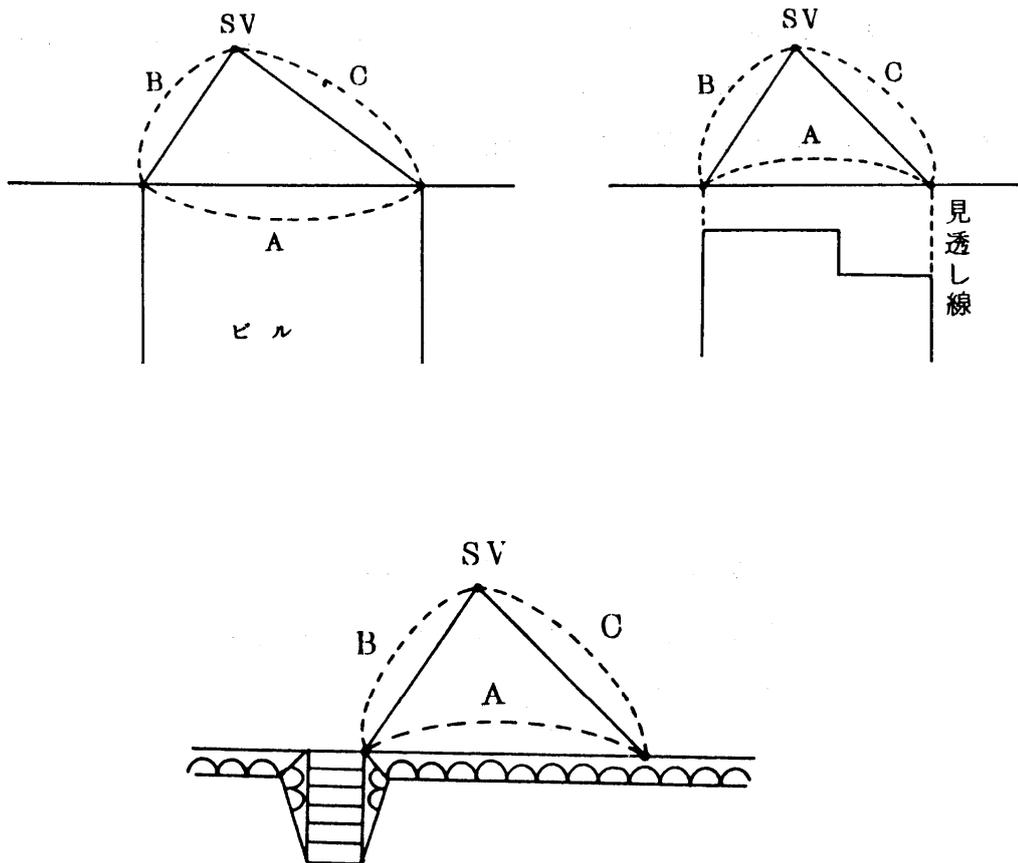


(測定例3)

建物、擁壁等構築物を基点、基線とする場合

注1) 永久性、永久度の高いと判断される建物等については、その建物の角を直接基点とするのが良い。

注2) 道路交叉点間の中間等で基点の選定が困難な場合は、建物の道路直角方向の見透し線上と縁石、U字溝等の交点を基点とする。

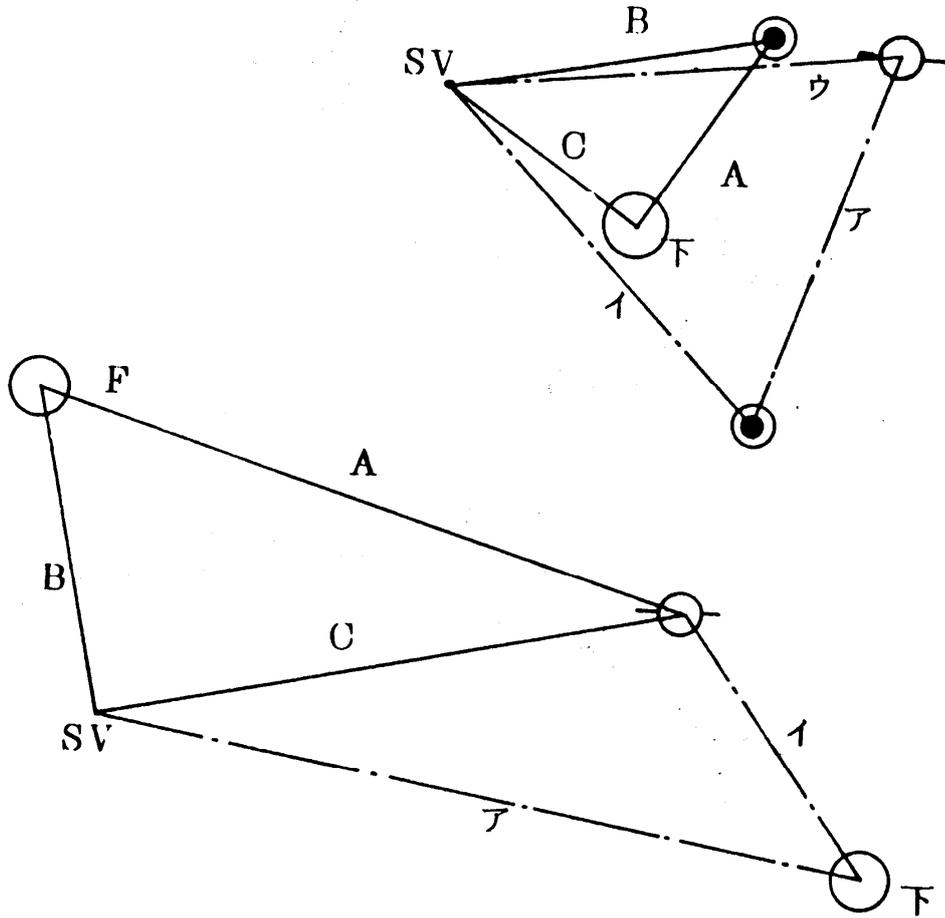


(測定例4)

マンホール、信号機、電柱等を基点とする場合。

注1) 基線として選定するものが附近にない場合は、マンホール等を基点とする。

注2) なるべく鋭角、鈍角をさけ、照査測定線を設ける。

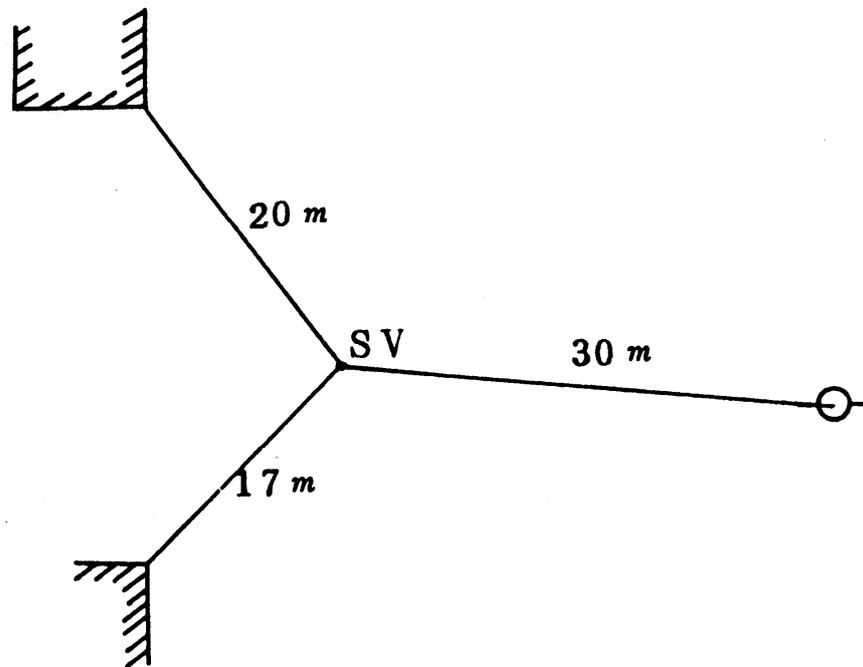
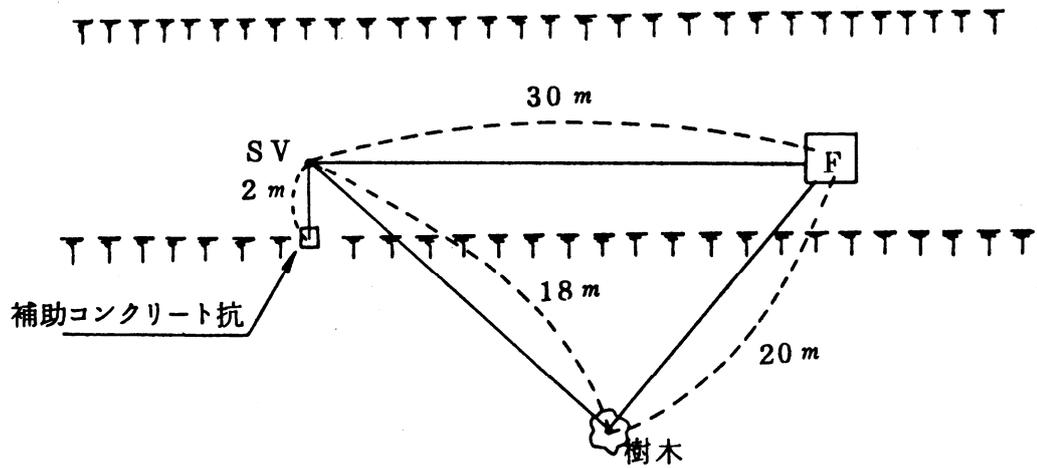


ア、イ、ウは照査線

(測定例 5)

基点、基線とする対象物が 1 点しかない場合。

注 1) 必要により補助杭を設けるか、大きい樹木 (民地内)、その他永久度の高そうなものから、なるべく多く放射状の測定をする。この場合は、できるだけ水平に測定が可能なものが良い。



(製図方法)

注 1) 図面の縮尺

縮尺は 1 / 200 を基準とする。

注 2) 図面に用いる線の太さ、字画の標準

図面に用いる線の太さ字画の標準は、表-2 を標準とする。

表-2 オフセット図に用いる線の太さ、字画の標準

	種 別	線の太さ (mm)	字 画 (mm)	摘 要
1	サブタイトルと下線	0.7	10	
2	方位と縮尺	0.5	6	
3	地物平面図	0.3	5	記入文字、数字を含む。
4	配管線と記号	0.7	3	記号補助の略称を含む。
5	基線と支距線	0.3		
6	測定数値	0.5	5	

注 3) 図面記号

オフセット図に用いる各種地物の記号は、表-3 に示すものを用いる。

表-3 オフセット図に用いる記号

対象物	記号	対象物	記号
基準点	●	境界線・縁石	—————
仕切弁	×	U字溝 L形溝	===== ===== =====
消火せん	●	雨水枴	——— ——— ———
空気弁	⊕	コンクリート 擁壁・護岸	——— ●●●●●●●● ———
下水マンホール	⊕	石積	~~~~~
NTTマンホール	⊕	階段	
東電マンホール	⊕	コンクリート塀 ブロック塀	——— ■ ■ ———
電柱	○—	一般の塀・柵	
信号機	○S ●	生垣	~·~·~·~
街路灯	●	門	∞ □ □
電話ボックス	⊕B <small>ポール式</small> ⊕T	建物・家屋	——— ———
ポスト	⊕ <small>ポール式</small> ⊕T	傾斜面	——— ——— ———
水道路上施設 (自記水圧計)	<small>ポール式</small> ⊕W	軌道	——— ——— ———
水道流量計室	MW MW	橋	——— ——— ———
バス停	○ 	ガード (ガーター)	——— ——— ———
ガードレール	○ ○ ○ ○	注1) 仮設的なもの、又は、境界線等で不明確なものは点線で表示する。 注2) この表以外のものは、文字により明らかにする。	
街路樹	■ ■ ■		

水道工事完成図作成の標準

平成13年	1月	発行	令和3年	3月	一部改定
平成19年	1月	全面改定	令和4年	1月	一部改定
平成19年	4月	一部改定	令和4年	9月	一部改定
平成19年	7月	一部改定			
平成19年	10月	一部改定			
平成20年	1月	一部改定			
平成20年	2月	一部改定			
平成20年	4月	一部改定			
平成20年	5月	一部改定			
平成20年	7月	一部改定			
平成20年	11月	一部改定			
平成20年	12月	一部改定			
平成22年	1月	一部改定			
平成22年	4月	一部改定			
平成22年	7月	一部改定			
平成22年	10月	一部改定			
平成23年	4月	一部改定			
平成23年	10月	一部改定			
平成25年	1月	一部改定			
平成25年	10月	一部改定			
平成26年	1月	一部改定			
平成26年	4月	一部改定			
平成27年	4月	一部改定			
平成27年	7月	一部改定			
平成28年	1月	一部改定			
平成30年	1月	一部改定			
平成31年	1月	一部改定			
令和元年	5月	一部改定			
令和2年	10月	一部改定			

発行 横浜市水道局
担当課 横浜市水道局技術監理課